

TR-I-0321

言語データベース用格・係り受け関係属性付与基準
- 表層格編 -

Specifications of Dependency Relations
for ATR Dialogue Database
- for surface cases -

浦谷 則好 中村 久夫*
Noriyoshi Uratani Hisao Nakamura

1993.3

概 要

ATR自動翻訳電話研究所では言語データベースの構築を進めてきた。言語データベースの各データには形態素情報、格・係り受け関係属性、日英対応の3種の情報が付与されている。すでに、深層格に対する格・係り受け関係属性の付与基準はテクニカルレポート(TR-I-0301)として報告しているが、ここでは表層格の付与基準を示す。表層格の付与は深層格の場合と比べ、作業負担が小さく、作業者の違いによる揺れも小さいという利点がある。また、「深層格編」では簡単にしか触れなかった構文関係の詳細についても説明した。

ATR自動翻訳電話研究所

ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

© (株) ATR自動翻訳電話研究所 1993

© 1993 ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

目次

1 はじめに	1
2 作業の内容	1
2.1 作業手順	1
2.2 格・係り受け関係記述対象	1
2.3 headの定義	2
2.4 格・係り受け関係の基本	3
2.4.1 かけ先の例	4
2.4.2 格・係り受けの基本方針	4
2.4.3 表記（あるいは復元）の対象となる格助詞	7
2.5 文型	8
2.5.1 文型についての説明	8
2.5.2 基本事項 および 例外、補足	12
2.6 格助詞の表記と復元	16
2.6.1 原則	17
2.6.2 b、c、d、eについて	17
2.6.3 格助詞がテキスト上にすでにある場合	22
2.6.4 複合格助詞	24
2.6.5 格助詞がテキスト上にない場合	27
2.6.6 格助詞みなしがテキスト上にある場合	30
2.6.7 格助詞または格助詞みなしがテキスト上にあっても表記しない場合	32
3 作業対象に関する例外 および 補足	33
3.1 助動詞	33
3.2 補助動詞の扱い	35
3.3 接続詞みなし	40
3.4 サ変名詞 (or 転成名詞)+ 係(or副)助詞+ 補助動詞「する」or「できる」	41
3.5 副詞の用言性	42
3.6 品詞番号を読み変える場合の主な例	42
3.7 接尾語について	43
3.8 作業しない格助詞	43
4 その他の検討を要する問題	44
4.1 名詞連鎖	44
4.2 固め	44
4.3 A+B+ [格助詞] +C と A+ [格助詞] +B+C	46
参考文献	48

1 はじめに

A T R対話データベース（テキストデータベース）^[1]には、基本的な言語分析として、形態素解析^[2]、日英対応^[3]、格・係り受け情報の情報が付与されている。格・係り受け情報は深層格を付与することを原則としていたが、深層格の付与は人に重い負担が掛かる上に、（A T Rでは綿密な付与基準を決めている^[4]が、）作業による揺らぎは防ぎきれない。そこで、一部のデータに対しては深層格の代わりに表層格を付与することにした。この報告書はその作業手順を示すものである。また、この報告書には“深層格編”では簡単にしか触れなかった構文関係（文型）の詳細なども記載してある（特に2.5など）。ところで、後で述べるように一部の例外を除き表層格は深層格と整合性を保つように設定されているので、A T R対話データベースには両方の情報が付与されているデータも存在している。

2 作業の内容

2.1 作業手順

表層格付与の手順について述べる。深層格の場合と(4)を除いて同じである。（深層格の場合には(4)は格助詞ではなく意味コードが付与される。）

- (1)まずテキスト中で述語になり得る用言(あるいはそれに準ずる語)を考える。(2.4参照)
- (2)その用言に対し格係受け関係を有している可能性のある語を考える。(2.4参照)
- (3)格係受け関係の文型を決定する。(2.5参照)
- (4)格係受け関係の格助詞の表記、復元を行なう。(2.6参照)
- (5)用言にかけた語にさらに格係受け関係をしている語があるかないかを考え、ある場合には(3)(4)の手順に基づき作業する。

深層格では2.5で後述する文型（構文関係）のすべてが対象となるが、表層格では04（連用修飾）と05（文修飾）は対象外となる。

2.2 格・係受け関係記述作業対象

形態素情報ファイル（形態素解析を行い、単語切り、標準表記、品詞、活用などの情報が付与されているテキストファイル）の品詞をもとに、作業対象か否かの別を記す。（）内は形態素情報ファイルの品詞コードである。

<作業対象となるもの>

- a 形容詞(1)
- b 名詞(4)
- c サ変名詞(5)
- d 代名詞(6)
- e 数詞(7)
- f 副詞(8)
- g 連体詞(9)
- h 固有名詞(30)
- i 形容名詞(31)
- j 本動詞(32)
- k 準体助詞(34)
- l 接尾語(17)

<作業対象とならないもの>

- a 接続詞(10)
- b 副助詞(13)
- c 接続助詞(14)
- d 終助詞(16)

- e 間投詞(33)
- f 並列助詞(35)
- g 係助詞(36)
- h 格助詞(15)

<状況に応じて作業対象となったりならなかったりするもの>

- a シンボル(0)
- b 助動詞(12)
- c 補助動詞(19)
- d 感動詞(11)
- e 接頭語(18)

上記に関する例外規定、注意事項については 3 で述べる。

2.3 headの定義

本格係受け作業における記述の対象となる語の中心部分をheadと呼ぶ。

本作業で格係受け関係を記述する場合には単語IDを用いる。形態素には、形態素情報ファイルで全て単語IDが付与されているため、本作業で一語、一つの句としたものが一つの形態素からなるときは、自動的にこの形態素(すなわち記述上はその単語ID)がheadとなる。しかし複数の形態素からなっている場合、そのなかから一つの形態素を選び出し、これをheadとしなければならない。

こうして本作業はheadとheadの関係を述べることになる。

なお形態素解析については原則として形態素情報ファイルに従う。

《 headの例 》

以下の例においては {} で囲んだ部分がheadである。

a 名詞のhead

名詞部分が複数の形態素からなる場合は原則として一番後ろの形態素をheadとする。形態素情報ファイルで接尾語、数詞、シンボルになっているものもheadになり得る。

第1回 {国際コンピューター会議} で...、10月 {27日} に...、
 6 {時} に...、先生 {方} が...、会議席 {上} で...、大 {会議室} で...、
 印刷 {物} を...、5万 {円} を...、お {名前} を...、{ダイアン先生} が...、
 15 {%} の...、{1} から...、広 {さ} を...

b 用言のhead

用言部分が複数の形態素からなる場合は原則として本動詞、サ変名詞、形容名詞、形容詞、サ変副詞、用言性のある名詞の部分をheadとし、補助動詞、助動詞の部分はheadとしない。本動詞が続けて表われ複合動詞のようになっている場合は、原則として複合動詞としてとらえず、それぞれを独立した用言と考えて作業する。

{働い} た、{喋ら} ない、{行か} なければ、{研究} する、
 {参加} したら、{出席} しました、{静か} だ、{広かっ} た、
 {のんびり} する、{無料} だ、平均 {的} だ

(注) <用言類の後ろに作業対象となる助動詞、補助動詞がある場合>

原則として用言部分にかかるものは用言部分にかける。そして用言と助動詞、補助動詞などの関係を記述する。さらにこの文が埋め込み文になる場合、埋め込み文のheadが一番後ろに

位置する助動詞、補助動詞である。

- ・会議に参加したいと言った
01OBJ (会議)に(参加)
01CON (参加)c (たい)
01CON (たい)と(言っ)

c タイトルのhead

文中でタイトルとして使われていることが明らかな場合最後の形態素をheadとする。そのためタイトルが「」で囲まれていれば後ろの「」がheadとなる。

[今後のコンピュータについて {}]
第五世代のコンピューターと自動 {翻訳}

d 固め処理のhead

固め処理の場合、誤解を避けるためにhead始とhead終の二つを使う。
固めた側のhead始とhead終を [] と {} で示す。

[政治]、{経済} の 両面
[会長]と {理事} の 二人
10月 [27日] から {30日} の 4日間
[電車]とバス {と} どちらがよろしいですか。

上のよう一つ目の単語の後ろと二つ目の単語の後ろの両方に「と」が使われている場合には、固めの単位の中に「と」も含める。

(「電車と」と「バスと」を固めるという考え方)

e 例外

テキストの形態素解析を変更し、複数の形態素をまとめて一語とみなした場合、そのなかの一つの形態素をheadとする。その場合テキスト上で本動詞(32) > 名詞(4)などの順でheadの可能性を探る。

こう {いっ} た
いく {つ} か

2.4 格・係り受け関係の基本

用言となり得る品詞は、原則として 32(本動詞)、5(サ変名詞)、1(形容詞)、31(形容名詞)である。

用言に格・係り受け関係をする可能性のある語

用言 → 用言と用言の関係も記述しなければならない

体言 → 体言となり得る品詞は、原則として 4(名詞)、6(代名詞)、7(数詞)、34(準体助詞)、30(固有名詞)

体言以外 → 原則として 1(形容詞)、8(副詞)、31(形容名詞)

埋め込み文 → 埋め込み文のheadの品詞

体言に格・係り受け関係をする可能性のある語

原則として 4(名詞)、6(代名詞)、7(数詞)、9(連体詞)、一部の用言

2.4.1 かけ先の例

- ・学生(4)が教授(4)の(15)講演(4)を(15)聴く(32)
「学生」のかけ先 → 「聴く」
「教授」のかけ先 → 「講演」
「講演」のかけ先 → 「聴く」
- ・秘書(4)が(15)ホテル(4)を(15)予約(5)する(19)
「秘書」のかけ先 → 「予約」
「ホテル」のかけ先 → 「予約」
- ・山(4)の(15)緑(4)が(15)美しい(1)
「山」のかけ先 → 「緑」
「緑」のかけ先 → 「美しい」
- ・教授(4)の(15)理論(4)は(36)難解(31)だ(12)
「教授」のかけ先 → 「理論」
「理論」のかけ先 → 「難解」
- ・名古屋(30)で(15)行なわ(32)れる(12)会議(4)
「名古屋」のかけ先 → 「行なわ」
「行なわ」のかけ先 → 「れる」
「会議」のかけ先 → 「行なわ」
- ・いま(4)持っ(32)て(14)い(12)ない(12)ので(14)今日(4)は(36)送れ(32)ませ(12)ん(12)けど(14)
「いま」のかけ先 → 「持っ」
「持っ」のかけ先 → 「送れ」
「今日」のかけ先 → 「送れ」
- ・ちょっとお伺いしたい (ちょっと:副詞 お:接頭語 伺い:動詞 し:補助動詞 たい:助動詞)
「ちょっと」のかけ先 → 「伺い」
「伺い」のかけ先 → 「たい」
- ・さらに詳しく検討します
(さらに:副詞 詳しく:形容詞 検討:サ変名詞 し:補助動詞 ます:助動詞)
「さらに」のかけ先 → 「詳しく」
「詳しく」のかけ先 → 「検討」
- ・斉藤(30)さん(17)は(36)いつも(8)社(4)の(15)方(4)に(15)いらっしゃい(32)ます(12)か(16)
「さん」のかけ先 → 「いらっしゃい」
「いつも」のかけ先 → 「いらっしゃい」
「社」のかけ先 → 「方」
「方」のかけ先 → 「いらっしゃい」
- ・今(4)お(18)持ち(32)の(15)切符(4)は(36)キャンセル(5)し(19)て(14)ください(19)
「今」のかけ先 → 「持ち」
「切符」のかけ先 → 「持ち」
「切符」のかけ先 → 「キャンセル」

2.4.2 格・係り受けの基本方針

a 格関係、係り受け関係のあるところにかける。

b 01優先の法則 → かけ先が2つ以上考えられ、かけ先の決め手がない場合は文型が01になり得るかけ先にかける。01の可能性が2つ以上ある場合はcに述べる近場の法則に従う。特に機能動詞が表われた場合はかけ先が2つ考えられることが多い。

- ・明日事務局に連絡をとります
01(明日)e(とり)
01(事務局)に(とり)
01(連絡)を(とり)
「明日」「事務局」のかけ先は「連絡」と「とり」の二つが考えられるが01になる「とり」を優先する。
- ・先生に基調講演のお願いをします
01(先生)に(し)
01(願い)を(し)
「先生」のかけ先は「願い」と「し」の二つが考えられるが01になる「し」を優先する。
- ・座長に直接インタビューをしたい
01(座長)に(し)
04(直接)(し)
「座長」のかけ先は「インタビュー」と「し」の二つが考えられるが01になる「し」を優先する。また「直接」のかけ先もそれにならない「し」にする。
- ・15人情報工学専攻の学生がきます
01(人)e(き)
01(学生)が(き)
「15人」は「02の」で学生にかけることも可能であるがここでは01優先の法則が働いて用言である「きます」にかける。

c 近場の法則 → かけ先が2つ以上考えられ、決め手がない場合は位置の近いものにかける。

- ・先生が10日の会議に出席して発表する予定です
01(先生)が(出席)
先生のかけ先は「出席」「発表」の2つが考えられるが、より近接している「出席」の方をかけ先とする。
- ・助手もサブセッションに参加したいと考えています
01(助手)が(参加)
「助手」のかけ先は「参加」「たい」「考え」の可能性がありますがより近接している動詞「参加」の方をかけ先とする。
(注) 助動詞にかかる場合については2-1bを参照

d かけ先がない場合

d-1 用言の復元 → 格助詞がある場合で文型が01となる場合のみ用言を復元する。復元した用言の記述は2種類ある。

(1) #?#

(2) #DA#

"is a" の関係がなりたてば#DA#を記述するが、原則として「だ文」の復元はできるだけ避ける。

- ・斉藤先生に是非、と委員会の方でも一致しております
01(斉藤先生)に(#?#)
04(是非)(#?#)

01(#?#)と(一致)

格助詞「に」があることで動詞#?#の復元が可能である。

・ファースト・ネームがエス・ティー・エー・シー・イー・ワイ

01(ファーストネーム)が(#DA#)

01(エス・ティー・エー・シー・イー・ワイ)e(#DA#)

「ファースト・ネーム」と「エス・ティー・エー・シー・イー・ワイ」の間に "is a" 関係があるので助動詞#DA#の復元が可能である。

d-2 格助詞がない場合は用言を復元せず、作業しない。

・はい、先生、今日の予定は

02(今日)の(予定)

格助詞がないために復元できないので「予定」のかけ先はなくなる。「予定」はどこにもかからない。

・はい、直ちに

副詞「直ちに」しかないので復元はしない。

(注)深層作業での復元→復元した用言の記述は主に3種類ある。

(1) #?#

(2) #DA#

"is a" の関係がなりたてば#DA#を記述する。深層格は通常OBJ-PRD型になる。

・ファースト・ネームがエス・ティー・エー・シー・イー・ワイ

01OBJ(ファーストネーム)(#DA#)

01PRD(エス・ティー・エー・シー・イー・ワイ)(#DA#)

「ファースト・ネーム」と「エス・ティー・エー・シー・イー・ワイ」の間に "is a" 関係があるので助動詞#DA#の復元が可能である。

(3) #SURU#

下記の文では「AヲBニシテS」の「する」がテキスト上で欠落していると考えられる。このパターンでは「SURU」を復元して作業する。

新しい技術の開発を【目的】に会議を開催する

01OBJ(開発)(#SURU#)

01ROL(目的)(#SURU#)

04CIR(#SURU#)(開催)

深層作業の場合、格助詞がない場合でも用言を復元してかまわない。

また、文脈上明らかな場合はどのような用言を復元してもかまわない。

e かけ先が原則として決っている場合

<ぜひ...たい>

・私どもとしましても先生には是非参加していただきたかったのですが

04(是非)(たかつ)

・是非彼女を推薦したいと思います

04(是非)(たい)

<できれば、できましたら...たい>

・できましたら私の講演が何時になるか教えていただきたいのですが

04(でき)(たい)

2.4.3 表記（あるいは復元）の対象となる格助詞

格助詞の表記と復元に関しては2.6で詳述するが、ここで概説しておくことにする。もちろん、格助詞の表層形を尊重することを原則とするが、表層上に現われていない場合にはしかるべきものを復元して記述することとする。係助詞（「は」、「も」、「って」、「ったら」）や副助詞（「だけ」、「ぐらい」、「でも」、「か」（「何か」、「どこか」、「幾つか」の「か」）、「のみ」、「ほど」等）も格助詞に置き換えられる。

格助詞：

「が」、「を」、「に」、「の」、「で」、「と」、「へ」、「から」、
「まで」、「より」、「にて」、「って」、「として」、「にしる」、
「にせよ」、「について」、「にとって」、「における」、「において」、
「をもって」、「でもって」

※「って」に関して：「行っちゃうっていうのは...」、「あるってこと」、
「バックっていうのは...」の「って」は格助詞だが、「私って馬鹿よね」の
「って」は係助詞である。

特殊な格助詞：

b: 構文関係が02（後の名詞句が意味主辞となる連体修飾）で格助詞を介さない場合

例：（詳しい）b（こと） （大きな）b（問題）

c: 構文関係が01（格関係）で係り先が助動詞、補助動詞、接尾語（一般的にはこれらは対象外であるが深層格や表層格を变形するものは対象となっている）の場合

例：（思わ）c（れ） （紹介）c（くださる） （説明）c（易い）

d: 格助詞の復元が不可能（あるいは困難）な場合

例： 01（こちら）d（ありがとう）（←こちらこそありがとう）

02（月）d（前）（←何ヵ月も前から）

03（件）d（貼る）（←ポスターを貼る件）

06（点）d（気づき）（←何かお気づきの点が...）

e: 格助詞がないのが当然な場合

例： 01（明日）e（電話）（←明日、お電話しますから）

01（だいたい）e（なり）（←だいたい10万円前後になります）

02（今）e（持ち）（←今お持ちの切符は...）

複合格助詞（および「みなし格助詞」）：

形態素情報ファイルでは単独の格助詞とみなしていないが、この作業では表層の格助詞とみなすもの

「からの」、「までの」、「での」、「との」、「への」、「としての」、「についての」、
「という」、「にという」、「でという」、「がという」、「までという」、
「からという」、「でっていう」、「っていう」、「に対してという」、「に対して」、
「に対しての」、「に対し」、「に対する」、「に対しまして」、「につき」、
「につきまして」、「による」、「によつて」、「により」、「によりまして」、
「に関し」、「に関して」、「に関しまして」、「に関する」、「にとり」、
「にとりまして」、「にかけて」、「にもかかわらず」、「にしては」、「にしてみれば」、
「におかれまして」、「といたします」、「といたしまして」、「といった」、
「としまして」、「にと」、「へと」、「でと」、「をと」、「までと」、「までに」、
「からに」、「までが」、「からが」、「からで」、「からを」 など

2.5 文型

この作業では構文関係によって修飾・非修飾の関係をを01から06まで6つの型に分類している。

2.5.1 文型についての説明

01：名詞が格助詞を伴って用言にかかる一般的な格関係

01 (A)+ [格助詞] +(B)において

(A)に名詞性があり(B)が用言である場合。

(A)に該当するもの

シンボル(0) 名詞(4) 代名詞(6) 数詞(7) 接尾語(17) 接頭語(18) 固有名詞(30) 準体助詞(34)

- ・値段が高い 01 (値段:4)が(高い:1)
- ・佐藤さんをお願いします 01 (さん:17)を(願ひ:32)
- ・理事の御宿泊されるホテル 01 (理事:4)の(宿泊:5)
- ・彼女と親しい 01 (彼女:6)と(親しい:1)
- ・わざわざアメリカから来てくださるんだからどこかへご案内しなくてはなりませんね
01 (アメリカ:30)から(来:32)
01 (来:32)c(くださる:19)
01 (どこ:6)へ(案内:5)
- ・私までお電話ください 01 (私:6)まで(電話:5)
- ・使っていただく 01 (使っ:32)c(いただく:19)
- ・何の心配もございません 01 (心配:4)d(ございませ:32)
- ・お電話ありがとうございました 01 (電話:4)e(ありがとう:11)

(注1) 格助詞 [と] [から] [まで] [に] [より] などは用言の後にたち、前の部分を名詞化する力を持っている。

- ・フロントで国際会議の武藤ですとおっしゃってくだされば...

01 (フロント:4)で(おっしゃっ:32)
01 (武藤:30)e(です:12)
01 (です:12)と(おっしゃっ:32)

「思う」、「考える」、「想像する」、「言う」、「叫ぶ」、「呼ぶ」など精神の活動や言語による活動を表わす動詞は格助詞の [と] を介してその内容を表わす項を直接とることができる。終助詞「か」が英語のwhether節にあたる疑問の名詞節を導く場合もある。

(注2) (A)の後に格助詞 [と] + 発言動詞「言う、思う、考える、話す etc.」がくる場合には (A) の位置には上記の品詞のほかに形容詞(1) サ変名詞(5) 副詞(8) 感動詞(11) 助動詞(12) 接尾語(17) 補助動詞(19) 形容動詞(31) 本動詞(32) 間投詞(33) 及びそれらを含む文がくることも可能である。その際の深層格は CON である。

- ・来年国際会議を開催すると発表した

01 (開催:5)と(発表:5)

(注3) (A)の後の格助詞 [から] に対しては (A)の位置にはサ変名詞(5)、助動詞(12)、補助動詞(19)、本動詞(32)、およびそれらを含む文がくることも可能である。同様に [より] [まで] に対しても、サ変名詞(5) 助動詞(12) 補助動詞(19) 本動詞(32)及びそれらを含む文が(A)の位置にくることができる。なお、[から] [まで] の深層格は TMA、TMF、TMD、TMTのTIME系であることが多い。

- ・よく調べてからお電話します
01 (調べ:32) から(電話:5)
- ・もう一度見直してから2日後にお送りします
01 (見直し:32) から(送り:32)
- ・その方が個人で航空券を買うよりかはお得です
01 (買う:32) より(得:31)
- ・個人で予定を組むよりは安くなる
01 (組む:32) より (安く:1)
- ・予約できるかどうかははっきりするまで時間がかかります
01 (はっきり:8) まで (かかり:32)
「はっきり」はサ変副詞なので「はっきり」がheadとなる。
- ・そこへ行くまで時間はどのくらいかかりますか
01 (行く:32) まで (かかり:32)

(注4) (A)の後に格助詞「に」があるときは サ変名詞(5) 助動詞(12) 補助動詞(19) 本動詞(32) を含む SENTENCE(文)が(A)の位置にくることができる。

- ・ビザを取るには、旅券と写真1枚と申請書が必要になります
01 (取る:32) に(必要:31)
04 (必要)なり:32
「ビザを取るには」の「に」は格助詞
「必要になる」の「に」は助動詞12
目的を表わす格助詞「に」は用言に直接付くことができる。
- ・山へ芝を刈りに行く 01 (刈り:32連用形)に(行く)
- ・4月は1日も休まずに働いた
01 (安ま:32)に(働い)

(注5) 接頭語は固めのときに作業対象となる。

(注6) シンボルが作業対象となるのは原則として %、タイトルにつけられる「」などに限られている。

(注7) 終助詞「か」は文を名詞句化することがある。

- ・ご意向どおりにできるかどうかはわかりません
01 (どう:8)が(わかり:32)
- ・どこから帰るかを決めておかなければならないですね
01 (帰る:32)を(決め:32)

(B)に該当するもの

形容詞(1) 名詞(4) サ変名詞(5) 副詞(8) 助動詞(12) 補助動詞(19) 形容名詞(31) 本動詞(32)

- ・会議場内のお席は自由です 01 (席)が(自由:31)
- ・ああそれは安いですね 01 (それ)が(安い:1)
- ・この本がぴったりかと思えます
01 (本:4)が(ぴったり:8)
01 (ぴったり)と(思い:32)
- ・それではこちらも検討いたしますので
01 (こちら)が(検討:5)

(注8) この中で名詞は本来(B)の位置に来るはずのない品詞であるが用言性の強い名詞は用言として扱うことができる。転成名詞、サ変名詞などが用言性の指標となり得るがその名詞に助動詞「だ」やその丁寧形「です」が後接していることも名詞の用言性を強める役割りをしている。

- ・旅先はオランダが中心です
01 (オランダ:30)が(中心:4)
「中心」は名詞であるが文型は01にする。
- ・そんなそうそうたる方々とご一緒ですか
01 (方々:4)と(一緒)
「一緒」は名詞であるが文型は01にする。

02: 格助詞 (主に「の」) を介しての連体修飾

(後の名詞句が意味上のheadの場合、06との違いに注意)

02 (A) + [格助詞] + (B) において

(A)(B)が名詞句で(A)が(B)を連体修飾するときの意味的關係を表現する。

(A)となり得るのは原則として名詞(4) 代名詞(6) 数詞(7) 連体詞(9) 固有名詞(30) 形容名詞(31)

形容詞(1) 接尾語(17)

- ・桜の花 02(桜:4)の(花:4)
- ・その人 02(その:9) b(人:4)
- ・何か問題 02(何:6) b(問題:4)
- ・また面倒なことになりますし 02(面倒:31) b(こと:4)
- ・5の倍数 02(5:7)の(倍数:4)
- ・アラビア数字の1 02(数字:4)の(1:7)
- ・日本の新幹線の速さは世界でも有数です
02(日本:30)の(新幹線:4)
02(新幹線:4)の(さ:17)
「新幹線」は「速さ」を連体修飾しているが「速さ」のheadが「さ」なのでこのように作業する。
- ・どのくらいの大きさの会議場ですか
02(どの:9) b(くらい:13)
02(くらい)の(さ:17)
02(さ)の(会議場:4)
- ・難しい点がかなりある 02(難しい:1) b(点:4)
- ・大阪市北区中ノ島3の5の中島進です
02(5:7)の(中島進:30)
住所や電話番号の中で使われている格助詞の [の] (ex. 2の5の7)は、後述する名詞連鎖の一部と見て作業しない。
- ・どういふご質問でしょうか 02(いふ:32) b(質問:4)
- ・少し多めに申込書をお送りします 02(少し:8) b(め:17)

(注1) 副詞が名詞を02 bで連体修飾する場合については 2.6.2 (b)を参照。

(注2) 形容詞が名詞を02 bで連体修飾する場合については 2.5.2 cを参照。

(注3) 形容名詞が名詞を02 bで連体修飾する場合については 2.5.2 c を参照。

(注4) 「どういふ」「こいふ」「そいふ」etc.については 2.6.2 (b)を参照。

(注5) 接尾語が02 bで連体修飾される場合については 2.5. c を参照。

(注6) 副助詞「くらい」については 2.6.2 (b)を参照。

(B)となり得るのは原則として名詞(4) 代名詞(6) 数詞(7) 接尾語(17) 固有名詞(30)

(注7) 格助詞 [の] とその他の格助詞の間に位置する形容名詞は名詞的な扱いを受ける。

- ・君の自由になる
02 (君)の(自由:31)
01 (自由)になる)
- ・通行の邪魔になる
02 (通行)の(邪魔:31)
01 (邪魔)になる)

03 文の連体修飾 (用言)+(名詞句)

文が連体修飾している場合(英語でいう関係文になっている場合など)

03とする。記述は降べきにする。格助詞は補って考える。

- ・青い空 03 (空)が(青い:1)
- ・投資した三億円 03 (円)を(投資:5)
- ・2日目に興味のある講演が集中しています 03 (講演)に(ある)
- ・右上に書いてあります学術デモとは何でしょうか 03 (デモ)と(書い)(32)
- ・講演者のよく見える席
03 (席)から(見える)(32)

上記6つの例文では修飾される名詞句と連体修飾節の間に格関係があり、その格関係は連体修飾節内部の格関係と重複することはない。

- ・では会長だけ招待、という形にしていただけのですね

01 (会長)を(招待)

03 (形)d(招待)

[と]は格助詞で、「いう」は動詞であるが、本作業では「という」を一まとめにして格助詞とみなしている。(2.6.6 参照)

格助詞復元順位(2.6.1)に従って見ていくと、ここでは「会長を招待する」ということなので格助詞 [を] を復元する。また「形」と「招待」の間の関係を 03 にした時点で、名詞「招待」を用言とみなしたことになるので、「会長」と「招待」との間の関係は 01 となる。

(注) 深層作業で02CONとなるもののうち、用言+名詞のタイプは表層作業では03で扱った。

- ・明日なら完成すると返事をした
深層作業 02CON(完成)返事)
表層作業 03 (返事)d(完成)

深層作業では意味内容を考えるので02で処理できるが、表層作業では原則として意味内容を考えない。このため用言と名詞の関係は03で扱わざるを得ない。

04 連用修飾 表層格はない

- ・青ざめて見える 04 (青ざめ)(見える)
- ・数学的に正しい 04 (数学的)(正しい)
- ・とても静かだ 04 (とても)(静か)
- ・前もって書面でお答えします 04 (前もって)(答え)
- ・先程 申し上げましたが... 04 (先程)(申し上げ)

- ・会議に参加できなくなる 04 (でき)(なる)
- ・それを聞いてうれしい 04 (聞い)(うれしい)
- ・いま持ってきてないので今日中には送れませんけど 04 (持っ)(送れ)
- ・プロシーディングスはいくらですか 04 (いくら)(です)
- ・静かに歩く 04 (静か)(歩く)

(注) 形容名詞による連用修飾は表層作業では04で扱ったが、深層作業で01で扱った。

- ・会議を非常に楽しみにしています
深層作業 01DGR(非常)(し)
表層作業 04 (非常)(し)

05 文修飾 表層格はない

- ・会議の広告を雑誌で見たのですが、詳しい資料はありますか 05 (見た)(あり)
- ・お忙しいところわざわざご連絡いただきありがとうございます
04 (わざわざ)(連絡)
01 (連絡)c(いただき)
05 (いただき)(ありがとう)
- ・副題をつけていただければ、こちらで内容が把握し易い 05 (いただけれ)(易い)
- ・おそらくイタリアはインフレです 05 (おそらく)(です)
「おそらく」は副詞であるが特別に文修飾とみなす。2.5.2 f 参照。深層作業EVA。

06 (用言性のある名詞句)+ [格助詞] +(名詞句) (前の名詞句が意味上のheadのとき) 形の上では連体修飾になっているが、実際には03に似て英語の関係文に近い型。

- ・後日、ご指定の口座に振込させていただきます 06 (口座)を(指定)
- ・今回の会議にぴったりの本です 06 (本)が(ぴったり)
- ・何かお気づきの点とか、ございませんでしたでしょうか
06 (点)d(気づき)
「気づき」は動詞「気づく」からの転成名詞であり、用言性が認められる。この例での「点」は、単独では用いられない形式的な名詞と考えられる。

2.5.2 基本事項および例外、補足

- 01優先の法則 → テキストが01または02のどちらにも分類できる場合は01を優先する。
2.4.2を参照。
- 01、02の選択 → 格助詞 [の] がない場合、01優先の法則がまず考えられるが用言よりも名詞句との関連性が強いために02のパターンとなるものがある。
 - ・はい、【こちら6】にご {依頼 4} は初めてでいらっしゃいますか
02 (こちら)に(依頼)
01優先で「こちらにはご依頼は初めて」とも読めるが [に] 格は「依頼」の必須格だから02>01にしてもよい。
 - ・ええと、9【時17】から10【時】 10時から、休憩時間というのはございますか
02 (9時)から(10時)
 - ・ええ、大須賀先生のご講演を聴講してから出ますので、【名古屋駅】に11時20【分17】ぐらいになりますか 02 (名古屋駅)に(分)
 - ・そちらとは関係のないことです 02 (そちら)と(関係)
 - ・パンフレットと一緒に送ります 02 (パンフレット)と(一緒)

- ・往復の新幹線と宿泊先がセットになっている 02 (新幹線と宿泊先:固め処理)が(セット)
(注) 固めについては 4-1 参照。
- ・協賛金はいくらかお話いただきたい 02 (協賛金)が(いくら)
- ・コンピュータ会議で配布用、と
02 (コンピュータ会議)で(配布)
06 (用)d (配布)

c 02 b と 03 d

形容詞、形容名詞が連体修飾している場合の02 b

1 その形容詞、形容名詞に01または04でかかる語がない。

×とてもきれいなもの

「とても」が「きれい」にかかるのでこの条件を満たさない

2 03を選択しても d にしかならない。(格助詞の復元が不可能)

×青い空

03(空)が(青い) となるのでこの条件を満たさない

以上2つの条件を満たす場合には02 bとなり得る。その結果、以下のようになる。

- ・お忙しい1 ところ4 ご無理ばかり申しましてすみません 02 (忙しい)b(ところ)
- ・必要な金額を決めてお申し込みください 02 (必要)b(金額)

d 02、03、06 の相互関係

(A)+ [格助詞] +(B) (A、Bは名詞または名詞に準ずるもの)において

d-1 格助詞が [の] である場合

<Aに用言性があるがBに用言性がない場合>→06

- ・代りのテニスコート 06 (テニスコート)の(代り)
- ・今回の会議にぴったりの本です 06 (本)が(ぴったり)
- ・払い戻しのお金で清算 06 (お金)を(払い戻し)
- ・代りの品 06 (品)d(代り)
- ・そちらに必要事項をご記入の上、郵送していただくことになっています
02 (事項)を(記入)
06 (上)d(記入)
- ・登録の担当の者に聞いてまいります
02 (登録)の(担当)
06 (者)d(担当)

<A、Bの両方に用言性がある場合>→02

- ・テニスの合宿 02 (テニス)の(合宿)
- ・講演のお手伝いはこちらで要員を用意いたしておりますので
02 (講演)の(手伝い)

「講演」はサ変名詞、「手伝い」は動詞「手伝う」からの転成名詞であり、用言性が認められる。

<Aに用言性がないが、Bに用言性がある場合>→原則として02

格助詞が [の] で 06となる場合に、Aにかかる語があるときはその語がA に対してどのような格助詞でかかっているか 02-06のパターンをとる。

- ・コンピュータ国際会議の登録のことでお伺いしたいことがあるんですが

02 (コンピュータ国際)の(登録)

06 (こと)d (登録)

・登録を担当の山田さんですね

02 (登録)を(担当)

06 (さん)が(担当)

d-2 格助詞が [の] 以外の場合

<Aに用言性があるがBに用言性がない場合>→06

<A、Bの両方に用言性がある場合>→02

<Aに用言性がないが、Bに用言性がある場合>→原則として02

格助詞が [の] 以外の場合に Aにかかる語があるとき

a) Aの前の語が格助詞 [の] を伴ってAにかかっている場合は、原則として02-06のパターンとする。

・案内書の訂正といった形で、広報することは考えておいでなんですか

02 (書)の(訂正)

06 (形)d (訂正)

本作業では「といった」を格助詞とみなしているが、格助詞表記の原則の例外事項として、03、06の場合の「といった」は表記されずdで作業される。

・夜は数学の勉強という予定です

02 (数学)の(勉強)

06 (予定)d (勉強)

b) Aにかかる語が格助詞 [の] 以外でAにかかっている場合、原則としてAを用言とみなして03にし、01-03のパターンとする。

・では会長だけ招待、という形にさせていただけるんですね

01 (会長)を(招待)

03 (形)d (招待)

格助詞復元順位に従って見ていくと、ここでは「会長を招待する」ということなので、[を]を復元する。また、「形」と「招待」の間の関係を03にした時点で、名詞「招待」を用言とみなしたことになるので、「会長」と「招待」との間の関係は01となる。

・来年会議を開催ということです

01 (会議)を(開催)

06 (こと)d (開催)

・だから今回もパスってことに

01 (今回)e (パス)

03 (こと)d (パス)

サ変名詞の前が"副助詞"である場合は原則として01-03型。

・今日だけは勉強ということですよ

01 (今日)e (勉強)

03 (こと)d (勉強)

e 04と05

本作業において、04と05の選択については過去何度も検討が繰り返され、作業方針に変更が加えられて現在の基準となっているため、データは必ずしも統一されていないが、最終的には以下のような規則に則り04と05を付与した。

e-1 04と認識される場合

<主語(subject)、時制(tense)、相(aspect)、能(voice)、法(mode)が一致している>

- ・私は当日朝行って、次の日講演して帰るから一泊二日だと聞いたんですけど

04 (行っ)講演)

04 (講演)帰る)

- ・我が社でもヴィジュアル面に力を入れて講演しますのでよろしく 04 (入れ)講演)

<...かもしれない、...なければならない、...なくなる>

- ・多少は早くなるかもしれません

04 (早く)なる)

04 (なる)しれ)

- ・またお電話するかもしれません

04 (また)電話)

04 (電話)しれ)

- ・会議に参加される方からは頂戴しなければなりません 04 (頂戴)なり)

- ・私の登録をキャンセルしなければならなくなりました

04 (キャンセル)なら)

04 (なら)なり)

e-2 05と認識される場合

<subjectの違いが明確である場合>

- ・委員会のものが5時ごろお迎えに上がりますので、先生はお部屋でお待ちになってください 05 (上がり)待ち)

「上がり」の主語は「委員会のもの」で、「待ち」の主語は「先生」なので明らかに主語が違う。

- ・私はその時に宿泊も一緒に頼んだんですが、契約ホテルがすでにいっぱいだったんです

05 (頼ん)いっぱい)

「頼んだ」の主語は「私」で「いっぱい」の主語は「ホテル」

<かかり先が補助用言、助動詞類(品詞番号12、17、19)の場合>

- ・あなたにプランを作ってくださいとお客さんに選んでいただく 05 (ください)いただく)

- ・こちらからまず招待状をお送りしますので、受け取ったらすぐにそちらでビザ申請をさせていただきます

05 (送り)たい)

05 (受け取っ)たい)

- ・どこに泊まっているかわかればこちらから連絡できますから 05 (わかれ)でき)

- ・取り引き銀行に連絡して担当者に調査させます 05 (連絡)せ)

- ・こちらとしてもできるだけことはしましたので、いかんともしがたいんですが

05 (し)がたい)

<voiceの違いが明確である場合>

- ・目立つパネルを出さないと、B会場へ行く人には素通りされてしまいますね

05 (出さ)れ)

「出さない」の主語が明確でないが、「素通りされて」が明らかに受身の表現であるので voiceの違いがあると認識して 05 として作業する。

- ・私どもは長尾先生に座長をお願いしたのですが、断られました 05 (願い)れ)

「願い」も「断られて」も主語は「私ども」で同一であるが、voiceの明らかな違いにより 05 とする。

<「すみません」「ありがとう」「申し訳ない」などの一語文にかかる文は原則として05にする>

- ・お忙しいところご無理ばかり申しましてすみません 05(申し)(すみません)
- ・会議のプログラムご送付いただきありがとうございます 05(いただき)(ありがとう)

e-3 e-1、e-2に該当しない場合についてその都度検討する。(実際にはいくつかの条件が複合して表われることになる)。

- ・会議の1週間前なのにまだビザがおりないんです 04(な)(おり)
主語の違いが明確でない場合はdefaultとして04を選択する。
- ・10月に入るとキャンセル料が高くなります 04(入る)(なる)
主語の違いが明確でない場合はdefaultとして04を選択する。
- ・彼はその会議に出席して発言した 04(出席)(発言)
過去を示す助動詞「た」は「発言」の後ろにあるが「発言」だけにかかっているのではなく出席にもかかっていると考えられるのでこの例ではtenseの違いを認めない。
cf. 彼はその会議に出席したが発言しなかった
この例も同様に04であるがtenseの同時性がより明確である。
- ・参加者が多いものですから、呼び出しを個々にいろんなところで受けたのでは大変なことになります
05(です)(なり)
それぞれの文のheadとなっているのは「です」と「なり」であるが、headに対する主語はテキスト上では明確に表現されていない。しかし意味としての実体は「参加者が多い」と「大変なこと」に還元されるのでここでは主語の違う文と文の関係と認識して05とする。
- ・入り口にスライド受付というのをごさいますて、そちらでお申込みいただくこととなります
05(ごさいます)(なり)

f 副詞と04/05

原則として副詞:8は04でかける。例外としてEVA型の副詞(やはり、おそらく、きっと、折角、確か、多分、勿論 etc.) 05として扱う。

- ・たぶん、大丈夫だと思いますよ 05(たぶん)(大丈夫)
- ・きっと待っているはずですよ 05(きっと)(です)
- ・きっと印刷に出す時まちがえたんでしょう 05(きっと)(まちがえ)
- ・せっかくですから同じ会社の者と交代できないかと思ひまして 05(せっかく)(でき)
- ・もちろん、そのようなご事情では講演をお願いするわけにはまいりません
05(もちろん)(参り)
- ・確かに通行の邪魔になりますね 05(確か)(なり)

2.6 格助詞の表記と復元

この作業での原則は第一に表層を尊重するということである。テキスト上に表われている格助詞は原則として表記されなければならない(→複合格助詞の問題)。格助詞みなしとされているものも同じである。次にテキスト上に格助詞がない場合、復元ということになる。復元可能な格助詞が複数考えられる場合は格助詞リストの優先順位に従って復元する。格助詞みなしの復元は行なわない。

2.6.1 原則

- a 表層に格助詞がでているとき
その格助詞を記入。
- b 表層に格助詞がでていないとき
格助詞復元優先リストの順で直感に従い復元可能なものを入れる。
格助詞みなしは復元しない。

(格助詞優先順位リスト)

- 1. が 2. を 3. に 4. の 5. で 6. と 7. へ
- 8. から 9. より 10. まで

2.6.2 b、c、d、eについて

(b) 02のパターンでのみ使われる。格関係とは異なった形で直接名詞を修飾しているとみられる場合 [02b] をつける。

<連体詞+名詞>

- ・ 1万円も違いますから結構大きな問題だと思っうんですがね
02 (結構:8) b (大きな)
02 (大きな:9) b (問題)
連体詞にかかる副詞は02bで作業する。
- ・ 部数はどのくらい出ているんでしょうか
02 (どの:9) b (くらい:13)
01 (くらい:13) e (出)
「くらい」は副助詞であって原則として作業対象外であるが連体詞に直接後接している場合は名詞としてとらえ、連体詞の修飾の対象となって作業することになるので例外的に作業対象である。

<動詞+名詞>

- ・ どういったご用件でしょうか 02 (いっ:32) b (用件)
「どう」は副詞で原則として作業対象であるがこの場合、「いった」をheadとして扱う。
「どういった」が連体詞のような機能を持っているので02bになる。
- ・ まあそういうことがなければいいんですが 02 (いう:32) b (こと)

<副詞+名詞>

- ・ 少なくとも会議の3カ月前までに 02 (少なくとも:8) b (前)
- ・ もう少し右
02 (もう:8) b (少し:8)
02 (少し:8) b (右)
副詞の連体修飾は02にする。
連体修飾している副詞をさらに修飾する副詞がある場合、それらの副詞は02にする。

<副詞+接尾語>

- ・ もう一度見直してからお送りします 02 (もう:8) b (度)
副詞の連体修飾は02にする。

<形容詞+名詞>

- ・ まだあまり詳しいことが決っておりません 02 (詳しい) b (こと)
- ・ お忙しい方ですから 02 (忙しい) b (方)

<形容名詞+名詞>

- ・残念なことです 02 (残念)b(こと)

<接尾語+名詞>

- ・一週間ぐらい前になる 02 (間)b(前)

(c) 01 c でのみ使われる。

助動詞、補助動詞などは本来は作業対象外であるが、深層格または表層格を変形させるものは作業対象になる。この助動詞、補助動詞との関係を記述するときに c を使う。

動詞の連用形について形容詞の働きを持たせ、難易の意味を表わす「やすい」「にくい」「がたい」など(接尾語)も同様の作業対象に含める。

<動詞+助動詞>

- ・脅かしているように思われたくはないんですけどね
01 (思わ)c(れ)
01 (れ)c(たく)

<動詞+補助動詞>

- ・時間割りと演題、それに申込みの仕方と宿泊の手配等が書いてありますから、...
01 (手配)が(書い)
01 (書い)c(あり)
「手配等が書く」とはいえないが、補助動詞「ある」をつけると「手配等が書いてある」ということができる。
- ・価格表に細かく書いてございますので 01 (書い)c(ございます)
- ・備考欄にシミュレーションと書いていただく
01 (シミュレーション)と(書い)
01 (書い)c(いただく)

<動詞+接尾語>

- ・講師の方はつかまりにくいので、4日ぐらいいただけませんか
01 (つかまり)c(にくい)

<サ変名詞+助動詞>

- ・またご協力させていただくこともあるかと思えますし
01 (協力)c(せ)
01 (せ)c(いただく)

<サ変名詞+補助動詞>

- ・大学の方にもご紹介くださるということですね
01 (方)に(紹介)
01 (紹介)c(くださる)

<サ変名詞+接尾語>

- ・その方が説明し易いですから 01 (説明)c(易い)

<助動詞+助動詞>

- ・ 助手を会議に出席させたい
01 (出席)c (せ)
01 (せ)c (たい)

<助動詞+接尾語>

- ・ 息子が四万十川に行きたがっている
01 (行き)c (た) : 動詞+助動詞
01 (た)c (がっ) : 「がっ」は接尾語「がる」の連用形

<助動詞+補助動詞>

- ・ その件については今週いっぱい検討させていただきます
01 (検討)c (せ) : サ変名詞+助動詞
01 (せ)c (いただき) : 助動詞+補助動詞
01 (いただき)c (たい) : 補助動詞+助動詞

<補助動詞+助動詞>

上記の例文参照

<補助動詞+接尾語>

- ・ その案ではちょっと許可してもらいにくい
01 (許可)c (もらい)
01 (もらい)c (にくい)

(d) 副助詞、または係助詞しかないときは

- (1) 副(係)助詞をとり
- (2) 格助詞リストに従って復元
何か入ればそれを入れる
- (3) 何も入らないとき
副(係)助詞なしで言えなければ d
この(3)の場合に d を記述する

<01 d >

- (d-1) 格助詞の復元は可能であるが、復元すると疑問文など他の法(ムード)に変わった文になる場合。
- ・ バックにご参加になるのでしたらとくに何の心配もございません
02 (何)の(心配)
01 (心配) d (ございませ)
「心配がございません」と言えるが、ここでは「心配」が「何の」で修飾されており、もし格助詞「が」を復元すると「何の心配がございませか」と疑問文にしないと言えなくなってしまう。そのような場合は「が」を復元せずに [01 d] にする。
 - ・ バックをいくつか続けて参加することはできますけれどもかなり割高になりますね
01 (つ) d (続け)
副助詞の「か」がないと、「いくつ(を)続けますか」という疑問文でしか言えなくなるので、「か」がなければ平叙文では言えないと考え、[d]をつける。

(d-2) 格助詞の復元が不可能な場合

- ・ 今日お電話いたしましたのは、会議のちらしとポスターが刷り上がったので、そちらにお送り

しようかと思ひまして

03 (の) d (電話)

01 (の) d (思い)

・こちらこそありがとうございます

01 (こちら) d (ありがとう)

感謝している主体を表わす時、「ありがとう」においては「私があります」とか、「こちらがあります」という形を用いることはない。上の例は副助詞「こそ」がないと言えない表現であり、そのような場合はdをつける。

・この病気はしゃべらなければその方がいい 01 (病気) d (いい)

・ちょっとそのへんは業者にどれだけの台を用意できるか聞いてみませんか

01 (へん) d (聞いて)

(d-3) テキストの文脈において助動詞の「だ」があってもいわゆる主語が出にくい場合、「だ」を作業せず、後ろの用言にかけて、[01 d] としている場合。

・それで、広告のお値段なんです、価格表というものがあるんでしょうか

01 (値段) d (ある)

・この図だとブースに近いところまで張り出しているようですが 01 (図) d (張り出し)

<02 d> 名詞連鎖の間に副(係)助詞があるとき

・何カ月も前から計画しててワイフはどうしてもラマダルネッサンスに泊まりたがっているのに

02 (月) d (前)

係助詞「も」がないと「何カ月前から計画しているのですか」のように、疑問文になってしまう。

・どちらか一つのツアーをもう一度催すことはできないんですか 02 (どちら) d (つ)

・5日以降とかいうことになりますよね 02 (以降) d (こと)

cf. 5日以降ということになります 02 (以降) という(こと)

<03 d> 深層格で03GAI、03CMPになるものは通常表層格はdになる。

その項と用言の間に格助詞を復元することはできない。

・ポスターセッションの件と階段に企業展示のポスターを貼る件の2点を委員会で検討しまして、後日またお知らせいたします

03 (件) d (貼る)

・またご協力させていただくこともあるかと思ひますし 03 (こと) d (いただく)

・こちらこそ言い過ぎた点もあります 03 (点) d (言い過ぎ)

・特集を組むつもりでおります 03 (つもり) d (組む)

・縮刷版を配布するのは私どもですよ 03 (の) d (配布)

・効果が上がるわけです 03 (わけ) d (上がる)

・つまり、会議の広告と雑誌の宣伝が対向ページになるということなんです

03 (こと) d (なる)

・赤坂駅から歩いて5分です 03 (分) d (歩い)

<03 d> と <03が(を、に、の、で、...)>

広告を担当している者ですが → 03 (者) d (担当)

広告を担当している山田ですが → 03 (山田) が(担当)

「者が担当している」という文は成立しない従って [d] にする。深層作業では03GAIになる。

「山田が担当している」という文は成立可能 従って [が] にする。深層作業では03AGTになる。

<06 d> 深層格で06GAI、06PMCになるものは通常表層格は [d] になる。

その項と用言の間に格助詞を復元することはできない。

- ・講演の件でお願いがあります 06 (件)d (講演)
- ・何かお気づきの点がございませうか 06 (点)d (気づき)
- ・必要事項をご記入の上、郵送していただくことになっております 06 (上)d (記入)
- ・お留守のときにはメッセージを残しておきます 06 (とき)d (留守)
- ・急病ということで、今回の講演はキャンセルになりました 06 (こと)d (急病)

(e) 副助詞、または係助詞しかないとき

- (1) 副(係)助詞をとり
- (2) 格助詞リストに従って復元
何か入れればそれを入れる
- (3) 何も入らないとき
副(係)助詞なしで言えれば e

この(3)の場合に e を記述する

また、最初から格助詞が何もはいつておらず、格助詞の復元もできないときも e にする。

<01 e>

- ・通常でしたらこの間さしあげました料金表通りなんです 01 (間)e (さしあげ)
- ・明日、またお電話しますから 01 (明日)e (電話)
- ・コンピューター用語も追込みにかかっている等、いろいろと多忙なものでして。
01(いろいろ)と(多忙)

cf. 文中に「と」が出ていて、格助詞になっている場合は、品詞分類に従っておく。「いろいろと」が副詞として見出し語になっている辞書はないようであるが、本来副詞的な機能を持っている。そこで「と」が文中に表われていない場合は格助詞を復元せず e で処理しておく。

- ・いろいろご指示くださってありがとうございます 01 (いろいろ)e (指示)

- ・今回は演台とスライドは近いんですか 01(今回)e(近い)
「は」は係助詞であるが、「は」がなくてもいえる。
- ・この度は会議の案内書をご送付いただきありがとうございます 01(度)e(送付)
- ・こちらこそ急な変更でご迷惑をおかけして、申し訳ない 01(申し訳)e(ない)
「申し訳ない」は一語となっているので「申し訳」と「ない」の間は作業のしようがない。

cf. 「仕方ない」「差し支えない」は一語扱いになっていないので、作業する。

- ・おさしつかえなければ、東京でのご宿泊先の電話番号をお教えいただけますか
01(さしつかえ)が(なけれ)
- ・それではしかたありません 01(しかた)が(あり)
- ・人工知能研究所のジョージ・オハラです 01(オハラ)e(です)
- ・このツアーには全部食事がついていないようですが 01(全部)e(つい)
- ・だいたい6万円以上から10万円前後になります 01(だいたい)e(なり)
- ・これは発着とも11月14日ですが 01(とも)e(です)

「とも」は17:接尾語で、この場合は名詞連鎖のheadとなっている。

<02 e >

- ・今お持ちの切符はキャンセルしてください

02 (今)e (持ち)

06 (切符)を (持ち)

「名詞、またはそれに準ずる語 v s 名詞、またはそれに準ずる語」の関係であるため、01にはできないが、後ろの名詞、またはそれに準ずる語に用言性があり、[01 e]にす
るような場合

- ・ふたりとも初めての海外旅行でしたから 02 (とも)e (初めて)

2.6.3 格助詞がテキスト上にすでにある場合

格助詞がテキスト上にあればそのまま記述する。

[が] -- 01

- ・上司が戻ってきましたので聞いてみます 01 (上司)が(戻っ)
- ・それだと休みが取れない 01 (休み)が(取れ)

-- 02

- ・クリストファーソン氏の講演が目的で聴講を希望した 02 (講演)が(目的)
- ・スライドにこちらを表、こちらが下、とマークを入れておけばよい
02 (こちら)を(表)
02 (こちら)が(下)

[を] -- 01

- ・はい、直接アメリカへ案内状を送りたいと思ひまして 01 (案内状)を(送り)
- ・ご参加いただいた方々にも、よい評判をいただいております
01 (方々)に(いただい)
01 (評判)を(いただい)

-- 02

- ・そちらに必要事項をご記入の上、郵送していただく
02 (必要事項)を(記入)
06 (上)d (記入)

[に] -- 01

- ・対向ページに載せていただく代わりに、宣伝用の縮刷版を会場で配布するんですね
01 (ページ)に(載せ)
01 (載せ)c (いただく)
03 (代り)d (いただく)
01 (代り)に(配布)

-- 02

- ・今回の会議にピッタリの本です
02 (会議)に(ピッタリ)
06 (本)が(ピッタリ)
「ピッタリ」は副詞で用言性があるが、「ピッタリ」と「本」の間には格助詞 [の] が
あるので、03 は成立せず、06となることから、「会議」と「ピッタリ」の間は02となる。
- ・2日の午後東京に到着予定です

02 (東京)に(到着)

02 (到着)の(予定)

[の] -- 01

(1)連体修飾節の中で主語を表わす [が] が [の] に変化したもの。

・今日は理事のご宿泊されるホテルがとれましたので、お電話したんですけど

01 (理事)の(宿泊)

「理事のご宿泊される」は「ホテル」を修飾している。

(2)名詞+の+ようだ

・2階にポスターを移動させた場合、何か案内のようなものを出した方がよろしいでしょうか。

01 (案内)の(ような)

03 (もの)の(ような)

・テレビのリモコンのように映写機の方へ向けなければなりませんか

01 (リモコン)の(ように)

04 (ように) (向け)

(2)のように助動詞「ようだ」を作業せざるを得ない場合に、[01の] になることが多い。

-- 02

・会議の1週間前なのにまだビザがおりないんです 02 (会議)の(前)

・講演のお手伝いはこちらで要員を用意いたしております 02 (講演)の(手伝い)

[で] -- 01

・それではひどすぎる

01 (それで) (ひど)

「それでひどすぎる」とはあまりいわないが、表層形を尊重する原則から格助詞 [で] を生かして [01で] とする。

・先日香港のご旅行の件でお問い合わせいただきありがとうございました

01 (先日) (e) (問い合わせ)

01 (件) (で) (問い合わせ)

・先にお渡ししたクーポンはそれぞれでお持ちなんですか 01 (それぞれ) (で) (持ち)

-- 02

・ホテルから繁華街まで車で10分ですから 02 (車) (で) (10分)

「車で10分です」の場合「車」のかけ先は「10分」と「です」の二つ考えられる。

「です」は意味が弱いのでここでは01優先の法則を破り02で「10分」にかける。

・何人かでいっしょの部屋です 02 (人) (で) (いっしょ)

[と] -- 01

・こちらの要員で十分だと思います 01 (十分) (と) (思い)

・事務局の係の人と打ち合わせる 01 (人) (と) (打ち合わせる)

-- 02

・パンフレットと一緒に渡せばいいですよ 02 (パンフレット) (と) (一緒)

[へ] -- 01

・ご自宅の方へお送りします 01 (方) (へ) (送り)

・1時までにB会場へおこしてください 01 (会場) (へ) (こし)

-- 02

- ・アメリカ、カナダへスキー旅行

02(アメリカ)へ(旅行)

02(カナダ)へ(旅行)

cf. 私どもの学会にはコンピュータ国際学会への参加希望者が大勢おります

02(学会)への(者)

02では「へ」が単独で使われることは少ない。「への」がほとんどを占めている。

そして、これまでの作業データでは復元はほとんどなく、テキスト上に表われたもののみである。

[より] -- 01

- ・2万部刷りなおすより問い合わせに個々に対応した方がいい 01(刷り)より(いい)
- ・いつも決めてたことより脱線の方が長くなってしまったね 01(こと)より(長く)

-- 02

- ・10日より前に行こうと思った 02(10日)より(前)

[から] -- 01

- ・これからもご協力いただかななくてはならない 01(これ)から(協力)
- ・62年に人工知能学会から浅田記念賞をいただいております
01(人工知能学会)から(ください)
01(賞)を(ください)

-- 02

- ・11月1日から0パーセントとあります

02(日)から(パーセント)

「0パーセント」の後ろに用言を復元し、そこに「11月1日」をかければ01になる。

しかし用言の復元はできるだけ避けるので、ここも「11月1日」を02で処理し、用言の復元はしない。

- ・9時から10時、10時から休憩時間というのをございますか 02(9時)から(10時)

[まで] -- 01

- ・行きがモスクワまでエスユー282です 01(モスクワ)まで(です)
- ・担当、日下部までお願いします 01(日下部)まで(願い)

-- 02

- ・ホテルから繁華街まで車で10分です

02(ホテル)から(分)

02(車)で(分)

02(街)まで(分)

2.6.4 複合格助詞

文の表層に格助詞、および格助詞とみなされる語群(格助詞みなしリスト参照)が意味的に連続して存在している場合、構文関係の記述の際にその格助詞、または格助詞みなしを続けて記述することができる。その場合、それぞれの格助詞および格助詞みなしの語群は隣接していなくてもよい時もある。

複合格助詞の例文については作業されたデータに基づいているので現実に可能な組み合わせの複合格助詞がすべて網羅されているわけではない。

(a) 複数の格助詞および格助詞みなしが隣接してテキスト上に表われている場合

[がという] 02

・お支払はそちらが、ということですか

02(そちら)がという(こと)

名詞+格助詞+引用の格助詞 [と] +用言の場合、[と]の前に用言を復元し名詞をその用言にかけることも考えられる。しかし用言の復元はできるだけ避けたいので、原則として名詞は一気に[と]の後ろに実在している用言にかけることになる。この場合に複合格助詞となる。ただし、深層作業においてはこのパターンの場合通常用言の復元をしていた。

[をと] 01

・45分に青を、50分に赤をとおっしゃってくだされば大丈夫です

01(青)をと(おっしゃ)

01(赤)をと(おっしゃ)

[に対しての] 02

・精神的なものに対しての補償というのはちょっといたしかねます

02(もの)に対しての(補償)

[についての] 02

・アカンパニ用のプログラムについての申込みは会場をお願いします

02(プログラム)についての(申込み)

[にと] 01

・何かのときのためにと私分は取っておいた 01(ため)にと(思っ)

[にという] 02

・両方にというのは無理なのですが 02(両方)にという(の)

[でと] 01

・書面でとありますが、今日、急に決ったので、これから出すとそちらには今日着きませんよね

01(書面)でと(あり)

[でという] 02

・ではそのころのご出発のものでということ 02(もの)でという(こと)

[での] 02

・東京でのご宿泊先の電話番号をお教えいただけますか 02(東京)での(先)

[でより] 01

・じゃあ、現地でよりもこちらで申し込みをしておいた方がいいんですね

01(現地)でより(いい)

[との] 02

- ・議長との打ち合せのときに質疑応答に関して注文があればおっしゃってください
02(議長)との(打ち合せ)

[への] 02

- ・個々の合図やスライドからOHPへの切り替えがスムーズにいくのか気になりまして
02(OHP)への(切り替え)

[へと] 01

- ・広島空港から羽田へと帰路につきます 01(羽田)へと(つきます)

[よりと] 01

- ・これ料金が59、800円よりとなっていますね 01(円)よりと(なっ)

[からに) 01

- ・まずは業者に確認してからにしましょう 01(確認)からに(し)

[からの] 02

- ・10時からの開会式には十分間に合うと思います 02(時)からの(式)

[からと] 01

- ・私のスピーチは18時10分からとなっておりますが 01(分)からと(なっ)

[までが] 01

- ・14日の消印があるものまでが早期登録扱いになるということだそうです
01(もの)までが(なる)

[までに] 01

- ・今までにそういったトラブルはありませんでした 01(今)までに(あり)
- ・原稿の方まではちょっと完全原稿にするまでには手が回っていないというのが本当のところ
なんです
01(する)までに(回っ)

[までの] 02

- ・10月30日までのキャンセルです 02(30日)までの(キャンセル)

[までで] 01

- ・80万までをお願いします 01(80万)までで(お願い)

[までと] 01

- ・14日までと書いてくれるのが親切じゃないんですか 01(14日)までと(書い)

(b) 複数の格助詞および格助詞みなしがテキスト上で隣接していない場合

[からが] 01

- ・4円から5円くらいがいいと思う 01(4円)からが(いい)

[からを] 01

- ・1週間から10日程度を考えています 01(間)からを(考え)

[からで] 01

- ・ご宿泊は13日から15日まででよろしいでしょうか
01(13日)からで(よろしい)
01(15日)までで(よろしい)

[までを] 01

- ・8月1から3日までと、8日9日と15日から20日をとっていただきたいんです
01(1)(3日)までを(とつ)

[をという] 02

- ・一般論文は誰がどんなことをどこで何時から、というのは申し込んだらもっと詳しいプログラムを送っていただけるんですか
02(こと)をという(の)
このパターンは深層作業では通常06PMCになる。

[でという] 02

- ・一般論文は誰がどんなことをどこで何時から、というのは申し込んだらもっと詳しいプログラムを送っていただけるんですか
02(どこ)でという(の)
このパターンは深層作業では通常06PMCになる。

[からという] 02

- ・一般論文は誰がどんなことをどこで何時から、というのは申し込んだらもっと詳しいプログラムを送っていただけるんですか
02(何時)からという(の)
このパターンは深層作業では通常06PMCになる。

2.6.5 格助詞がテキスト上にない場合

→考えられる格助詞を復元する。その場合格助詞リストの優先順位に従う。

01、02型の場合は、係助詞、副助詞、並列助詞などが格助詞の代りにたっている時や、格助詞が省略されているときなどに復元する。

03、06型の場合はテキスト上の語順をひっくり返して考えるので、復元せざるを得ない。

[が] --01

- ・私は団体行動が苦手なので 01(私)が(苦手)
- ・宿の予約もしてある 01(予約)が(し)
「宿の予約もする」であれば[を]が復元される場所。
「ある」が作業対象になっているため格助詞[が]になる。
- ・1室【分17】しか【取れ32】ませんで、あとは、ツイン2室になってしまうのですが
01(分)が(取れ)
「しか」がないと意味が変わるが、格助詞[が]でも文として存在するので[が]を復元する。

-- 02

- ・協賛金はいくらか、そういった関係もお話いただきたい 02 (協賛金)が(いくら)
- ・宿泊の欄は空白のまま 02 (欄)が(空白)

-- 03

- ・同じ分野を扱っておりますから 03 (分野)が(同じ)
- ・聞きたい講演が重なっている
03 (講演)が(聞き)
講演を聞く → 講演が聞きたい(助動詞「たい」が
加えられることによって格助詞「が」が入り得る。

-- 06

- ・お目当ての講演が聞けない 06 (講演)が(目当て)

[を] -- 01

- ・この間はお問い合わせありがとうございました。
02(間)の(問い合わせ)
01(問い合わせ)を(ありがとう)
- ・講演の抽象クトはもう送りましたが 01 (抽象クト)を(送り)

-- 02

- ・講演依頼の書類はもうお手元に届きましたか
02 (講演)を(依頼)
06 (書類)で(依頼)
- ・パスポートお持ちの方でしたら大丈夫です
02 (パスポート)を(持ち)
06 (方)で(持ち)

-- 03

- ・当日お渡しいたしますプログラムに書いてございます 03 (プログラム)を(渡し)

-- 06

- ・ご指定の口座に振込させていただきます 06 (口座)を(指定)

[に] -- 01

- ・会議に参加されるかたは全員、参加費をいただいております
01(かた)に(いただく)
01(全員)から(いただく)
01(費)を(いただく)

-- 02

- ・研究室と広報部と玄関と3枚くらいいただけますか 02 (研究室)と(と)に(枚)
研究室から「と(35)」の間は固めの処理となる。固めについては4で後述する。
- ・当社お問い合わせは初めてでしょうか 02 (当社)に(問い合わせ)

-- 03

- ・2日めに興味のある講演が集中しております 03 (講演)に(ある)
- ・宿泊しているホテルに戻ってということですか 03 (ホテル)に(宿泊)

-- 06

- ・ご宿泊予定でしたホテルから比較的近い
06 (ホテル)に(宿泊)
02 (宿泊)b (予定)

[の] -- 01

テキスト上に格助詞が存在する場合で見たように [01の] が考えられるのは原則として2つの場合のみである。格助詞が出ていない場合に文型パターンが01であれば復元は格助詞リストの優先順位にしたがって行なわれるので [の] が採用される可能性は低い。

-- 02

- ・この間はお問い合わせありがとうございました 02 (間)の(問い合わせ)
- ・第13回会議に参加予定です
02 (会議)に(参加)
02 (参加)の(予定)

-- 06

- ・依頼を受けた原稿のことで 06 (原稿)の(依頼)

[で] -- 01

- ・ヨーロッパはどちらへいらっしゃいますか 01 (ヨーロッパ)で(いらっしゃい)
- ・このままお待ちいたしますので 01 (まま)で(待ち)
この例文の場合復元する格助詞は [で] と [e] の2種類が考えられる。自然なのは [e] かもしれないが [で] でもいえるので復元格助詞リストの上位にある [で] を復元する。
- ・なにおん来年度は人工知能学会の理事を引き受けまして、その関係と講談社のコンピュータ用語も追込みにかかっているなど、いろいろと多忙なものですから
01 (関係)で(多忙)
01 (かかっ)で(多忙)

-- 03

- ・自動翻訳電話研究所を見学するツアーもごぞいます 03 (ツアー)で(見学)
- ・先生が講演なさる会場 03 (会場)で(講演)
- ・ヨーロッパ国内を自由に周遊できるユーレイルパスなどをご用意すればよいかと思えます
03 (ユーレイルパス)で(周遊)

-- 06

- ・プログラムには訂正の紙をはさめばいい 06 (紙)で(訂正)
- ・先生のスケジュールの確認のお電話なんです 06 (電話)で(確認)

[と] -- 01

- ・バンケット出るなんて書いたかな。 01 (出る)と(書い)

-- 03

- ・右上に書いてあります学術デモとは何でしょうか 03 (デモ)と(書い)

-- 06

- ・当社が提携の旅行社 06 (旅行社)と(提携)

[から] -- 01

・今回は予算の都合もございまして、会議に参加されるかたは全員、参加費をいただいております

01 (かた)に(いただく)

01 (全員)から(いただく)

01 (費)を(いただく)

-- 03

・海の眺めのよく見えます旅館にお泊まりいただきます 03 (旅館)から(見え)

[まで] -- 01

・料金は7000円から9700円で、 01 (円)まで(で)

2.6.6 格助詞みなしがテキスト上にある場合

格助詞みなしリスト

って

て

ていう

でもちまして

でもって

という

といたしまして

といた

として

としまして

と申します

と申す

において

におかれまして

におきまして

における

にしては

にしてみれば

にしろ

にせよ

について

につき

につきまして

にて

にとつて

にとり

にとりまして

によって

により

によりまして

による

に関し
に関して
に関しまして
に関する
に対して
に対し
に対しまして
に対する
をもちまして
をもって

(注1)上記のリストにある語が形態素情報ファイル上で格助詞になっていることもある

- ・また何人か行きたいって言ってるのが出てきまして 01(たい)って(言っ)
- ・その追加料金ておいくらですか 01(料金)て(いくら)
- ・新年会でいうことでしょうかね 02(会)ていう(こと)
- ・私ども、新たに「コンピュータと人工知能」という専門誌を創刊するんです
02(「」)という(誌)
- ・こちら側といたしましては、同じ演題でご専門の見地からお話いただけるということですので、講演自体の質が落ちるとは思っておりません
01(側)といたしまして(思っ)
- ・今回は関連学会の招待枠といったものはございませんか 02(枠)といった(もの)
- ・この際シミュレーションとして代表団派遣という形にしようという話になりました
01(シミュレーション)として(し)
- ・私どもとしましては是非とも先生のご協力をいただきたいのですが
01(ども)としまして(いただき)
- ・今まで参加された方の各々のコースにおけるの人気、感想はいかがでしょう
02(コース)におけるの(人気)
02(コース)におけるの(感想)
- ・暮れからお正月にかけてですから、大変込み合います 01(正月)にかけて(です)
- ・どちらにしろやはりお申込み金をいただかないと正式なご予約というわけにはいかないのでは
01(どちら)にしろ(いか)
- ・会議期間中のご宿泊について確認したいことがございまして
01(宿泊)について(確認)
- ・追加人員1名様につき3円かかります 02(様)につき(円)
- ・いずれにしてもそのことにつきましてはもう1度お電話いたします
01(こと)につきまして(電話)
- ・ロビーにてポスターセッションを行なうということです 01(ロビー)にて(行なう)
- ・2階会場にてポスターセッションというように案内するとかですね
02(会場)にて(ポスターセッション)
- ・それならこちらにとっても、とてもいいお話だと思います 01(こちら)にとって(いい)
- ・規定によりそういうことになってしまうんです 01(規定)により(なっ)
- ・多少、ご専門によるお話の違いはありまして 02(専門)による(違い)
- ・時間に関しては今のままで結構です 01(時間)に関して(結構)
- ・京都に関しましてはJTBから連絡するというところでよろしいでしょうか
01(京都)に関しまして(連絡)
- ・AIに関する研究がポスターで発表されているんです 02(AI)に関する(研究)
- ・私たちにかけた迷惑に対してもいくら支払っていただけるのか知りたいですね

01 (迷惑)に対して(支払っ)

- ・ 9月27日以後の取り消しに対する払い戻しはできません

02 (取り消し)に対する(払い戻し)

2.6.7 格助詞または格助詞みなしがテキスト上にあっても表記しない場合

a [の]

a-1 03で用言と格助詞 [の] の間に副助詞、終助詞等が介在して用言を

[の] に接続させている場合→ [の] を表記しない。

- ・ できるだけのこと 03 (こと)d(できる)
- ・ 通えるくらいの近くの町 03 (町)d(通える)

a-2 06の場合 A(体言)+ [格助詞] +B(体言)→ その格助詞を表記しない。

- ・ 私が不在の場合は大家さんの高橋さんに御伝言ください

02 (私)が(不在)

06 (場合)d(不在)

- ・ 宿泊の欄は空白のまま備考の欄に名古屋ヒルトン2名とお書きくださいますか

06 (欄)d(宿泊)

06 (まま)d(空白)

- ・ 私、担当の坂口ですが、名古屋で開かれるコンピュータ国際の件なのですが

06 (坂口)が(担当)

b [という、といった]

03で用言と「こと、点、のetc.」の形式名詞の間に格助詞みなし [という] が介在している場合

→ [という] を表記しない。

- ・ ケースによりまして、対処の仕方が変わってくるということなんですね。

03 (こと)d(変わっ)

- ・ 無料で会議の広告を対向ページに載せていただけるといことですか

03 (こと)d(いただける)

- ・ では後日またお電話するという事で 03 (こと)d(電話)

- ・ 特別な時間帯に利用できるかという点を確認したいのです 03 (点)d(できる)

- ・ 私はたまたま問い合わせたからいいようなものの、案内書の訂正といった形で、広報することは考えておいでなんでしょうか

06 (形)d(訂正)

[と] は格助詞で、「いっ」は動詞、「た」は助動詞であるが、この「いった」は said の意味を持たない形式的なもので、本作業では「という」「といった」をひとまとめにして格助詞とみなしている。

- ・ つまり会議の広告と雑誌の宣伝が対向ページになるということなんですが

01 (ページ)になる)

03 (こと)d(なる)

c 「尊敬の表現...になる、...になれる」の場合→ [に] を表記しない

- ・ 田原ですが、とおっしゃってくだされば代りにお泊まりになれます 01 (泊まり)c(なれ)

「泊まり」は本動詞「なれ」は作業対象の補助動詞である。

この間を結ぶ格助詞は定義によりcになる。

- ・ 当社の方へはおみえになれますか 01 (みえ)c(なれ)

- ・ 印鑑をお忘れなくお持ちになってください 04 (忘れ)持ち)

3 作業対象に関する例外 および 補足

3.1 助動詞

以下の助動詞は用言に後接している場合は作業対象外であるが、他に用言がない場合は作業対象にする。これらの助動詞を作業対象にしないと、用言がなくなってしまう、格関係が記述できなくなってしまうからである。

(ようだ/ようです)=推量

原則として体言+ [の] + 「ようだ」 の場合のみ作業する。用言に後接した場合は作業しない。

・ どこか控室のようなものはあるんですか

01 (控室)の(ような)

03 (もの)d(ような)

cf. ・ 空港内の JTBカウンターまで来るようにしてください

01 (カウンター)まで(来る)

04 (来る)(し)

「来る」と「ようだ」の活用形「ように」は作業しない。

(らしい)=推量

原則として体言に後接した場合のみ作業する。用言に後接した場合は作業しない。

・ どうもおっしゃるとおりらしい

04 (どうも)(らしい)

03 (とおりに)d(おっしゃる)

01 (とおりに)e(らしい)

cf. ・ いま、一番混んでいるらしいですよ

01 (いま)e(混ん)

04 (一番)(混ん)

「いる」と「らしい」の間は作業しない。

(みたいだ/みたいです)

原則として体言に後接した場合は作業し、用言に後接した場合は作業しない。

・ たとえば大学の講義みたいな感じでやるんですか

01 (講義)e(みたいな)

03 (感じ)d(みたいな)

cf. ・ タクシーじゃ時間がかかるみたいなので、別の行き方はありますか

01 (時間)が(かかる)

05 (かかる)(あり)

「かかる」と「みたい」の間は作業しない。

(だ/です)=断定

原則として体言に後接した場合は作業し、用言に後接した場合は作業しない。

・ 午後ならそちらにお伺いすることができます

01 (午後)e(なら) : 「なら」は「だ」の仮定形

04 (なら)(でき) : この場合の「でき」は32で動詞

cf. ・ 電話や手紙じゃだめなんですか

01 (電話)が(だめ)

01 (手紙)が(だめ) : 「だめ」は形容名詞(31)なので用言となる。「だめ」と「だ」の連

体形「な」の間は作業しない。

cf. 用言性のある名詞に後接した場合→原則として作業しない。

・理事は前回ご欠席でしたので

01 (理事)が(欠席)

01 (前回)e(欠席)

「欠席」はここでは名詞として分類されているがサ変名詞であるため用言性が強いので用言として扱う。従って用言性のある名詞に後接する助動詞「でし」は作業しない。

・プロシーディングスは来月出版です 01 (プロシーディングス)が(出版)

(注) 詳細については深層の仕様書01PRDを参照。

cf. 準体助詞の「の」「ん」+「だ」→作業しない

・一度お越しいただきたいのです

・申込み金なのですが

このタイプの「のだ」「のです」は意味を持たないので作業対象外とする。上例の助動詞「たい」と準体助詞「の」の間を03で作業することもやめる。

cf. 「だ」が形容名詞に後接して、いわゆる形容動詞を構成する場合→作業しない。形容名詞語幹部分を用言とする。

・会場が静かだ 01 (会場)が(静か)

(れる/られる)

尊敬の意味をもつ場合は作業しないが、可能、受身、自発の意味を表現している場合は原則として作業対象となる。

・こんなことで煩わされるのはいやですから 01 (煩わ)c(れる):受身

・こちらの申請書はすでに承認されています

01 (申請書)が(承認)

01 (承認)c(れ):受身

・札幌と小樽は近いのに行かれないのは残念だな 01 (いか)c(れる):可能

・ガイドを務められる人間の都合がつかないんです 01 (務め)c(られる):可能

・どうしても予約がお取りできないことも考えられます 01 (考え)c(られ):自発

・ご案内の方が不十分になってしまったものと思われます 01 (思わ)c(れ):自発

cf. ・銀行振込みを希望される方はその旨ご記入ください

01 (振込み)を(希望)

03 (方)d(希望)

この「れる」は尊敬であるため作業対象外。

(せる/させる)→作業対象

・あらたに対応策を考えさせていただきます 01 (考え)c(させ)

・先生の所属を確認させてください

01 (所属)を(確認)

01 (確認)c(せ)

・私の秘書を同行させたいと思います

01 (秘書)を(同行)

01 (同行)c(せ)

01 (せ)c(たい)

(たい)→原則として作業対象

- ・ 13日までにお支払願いたいのですが
01 (支払)c(願い)
01 (願い)c(たい)
- ・ 少しゆっくりしたいんだが 01 (ゆっくり)c(たい)
- ・ 3月7日前後の飛行機で帰国したい 01 (帰国)c(たい)

(ます)=丁寧→作業対象外

(た)=過去/完了/存在→作業対象外

(ぬ/ん)→作業対象外

(よう/う)→作業対象外

(まい)→作業対象外

(そうだ/そうです)→作業対象外

3.2 補助動詞の扱い

補助動詞19は原則として作業しないが以下の補助動詞は場合は陽または陰に深層格や表層格を変える力を有するので原則として作業対象となる。用言と作業対象になった補助動詞の間は01cで記述する。

例:可能表現の場合 [に] 格(EXP格)を生ずる。

(ある、ございます):(用言)+(接続助詞)「て」+(ある、ございます)→作業対象

(ある、ございます)がつくことにより [を] 格であったものが [が] に変わる。

- ・ プロジェクターがスタンドに固定してあります
01 (プロジェクター)が(固定)
01 (スタンド)に(固定)
01 (固定)c(あり) 5+19
cf. プロジェクターはスタンドに固定します 01 (プロジェクター)を(固定)
- ・ 金額が申込用紙に書いてあります
01 (金額)が(書い)
01 (申込み用紙)に(書い)
01 (書い)c(あり)
cf. ・ はい、私 で(助動詞) ございます
「ございます」は作業しない。
・ ありがとう(感動詞) ございました(助動詞)
「ございました」は作業しない

(いただく、いただける)→作業対象

(いただく、いただける)がつくことにより [が] 格から変わった [に] 格が陽には存在しないが作業する。「いただける」は可能表現でもある。

- ・佐藤教授にA Iと情報管理でお話しいただきます
 - 01 (佐藤教授)に(話し)
 - 01 (管理)で(話し)
 - 01 (話し)c(いただき)
- cf. ・佐藤教授がA Iと情報管理でお話します
- ・また事務局の方に協力していただくこともあるかと思います
 - 01 (方)に(協力)
 - 01 (協力)c(いただく)
 - 03 (こと)d(いただく)
- ・ご専門の見地からお話しいただけるということです
 - 01 (見地)から(話し)
 - 01 (話し)c(いただける)
 - 03 (こと)d(いただける)

(くださる):→作業対象

(くださる)がつくことにより陰にEXP格があらたに生ずる。

例:教授が仕事を手伝ってくださる

- ・こちらに郵送くださるわけですか
 - 01 (こちら)に(郵送)
 - 01 (郵送)c(くださる)
- ・大学の方にもご紹介くださいませんか
 - 01 (方)に(紹介)
 - 01 (紹介)c(ください)
- ・いろいろご指示くださってありがとうございます
 - 01 (いろいろ)e(指示)
 - 01 (指示)c(くださる)
- ・ご検討の上、またご連絡くだされば
 - 01 (連絡)c(くださる)

cf. ・東京駅まできてください 01 (駅)ま(き)

「ください」の考え方としては「下さる」(他動詞5段活用)の命令形「下され」の変化形と考える場合と接尾語的に人に何かを進めたり、そうしてほしいという意味を表わす丁寧表現としてとらえる場合の2つがある。「動詞+接続助詞で+ください」の場合は後者の接尾語的な意味を持つものとして考えているため、作業対象としない。

(くれる)→作業対象

(くれる)がつくことにより陰にEXP格があらたに生ずる。

- ・私に切符をとってくれますか
 - 01REC (私)に(とっ)
 - 01EXP (私)に(くれ)

「私」は「とっ」と「くれ」の両方にかかっていると考えられる。「とっ」からみると「私」はRECであるが、「くれ」からみるとEXPである。「くれる」がついたことによりEXP格の可能性が生じた。

cf. ・私が切符をとる

- ・新幹線の切符と宿泊の手配をやってくれると思います
 - 01 (手配)を(やっ)
 - 01 (やっ)c(くれる)
- ・人数が確定したら連絡してくれ
 - 01 (人数)が(確定)
 - 01 (連絡)c(くれ)
 - 05 (確定)x(くれ)
- ・うん、気をつけていてくれたまえ
 - 01 (気)を(つけ)
 - 01 (つけ)c(くれ):「たまえ」は終助詞
- ・次回から中田君に話しといてくれますか
 - 01 (君)に(話し)
 - 01 (話し)c(くれ)
- ・送り迎えは宿に頼めばやってくれるはずです
 - 05 (頼め)x(くれる)
 - 01 (やって)c(くれる)
 - 03 (はず)d(くれる)
- ・君が委員になってくれれば私も心強いな
 - 01 (委員)に(なっ)
 - 01 (なっ)c(くれれ)

(できる)→作業対象

(できる)がつくことにより陰にEXP格があらたに生ずる。

- ・参加者は何時でも会場内のJTBのデスクを利用できます

01AGT (参加者 が(利用))

01EXP (参加者)が(できる)

「参加者」は「利用」と「できる」の両方にかかっていると考えられる。「利用」からみると「参加者」はAGTであるが「できる」からみるとEXPである。「できる」がついたことによりEXP格の可能性が生じた。

- ・広告は2分の1ページから掲載できますので。

01 (広告)が(掲載)

01 (ページ)から(掲載)

01 (掲載)c(でき)

- ・10月の中旬頃にはお届けできると思います。

01 (頃)に(届け)

01 (届け)c(できる)

- ・もう少しゆっくりできるのがあれば、その方がいいんですが 01 (ゆっくり)c(できる)

(ねがう、ねがえる)→作業対象 01c

(ねがう、ねがえる)がつくことにより陰にEXP格が生じる。

- ・山田様には旅行1ヶ月前の13日までに支払い願いたいのですが

01 (13日)までに(支払い)

01 (支払い)c(願いたい)

01 (願いたい)c(たい)

cf. ・山田様が支払う

- ・中井様の口座番号をお教え願えますでしょうか、
01 (番号)を(教え)
01 (教え)c (願え)

(もらう、もらえる)→作業対象

(もらう、もらえる)がつくことにより陰にEXP格が生じ、[が] 格だったものが[に] 格になる。

(もらえる)は可能表現でもある。

- ・座長に内容を検討してもらう
01 (座長)に(検討)
01 (検討)c (もらう)
cf. 座長が内容を検討する
- ・委員の皆様がこの問題を考えておいてもらえますか
01 (皆様)に(考え)
01 (考え)c (もらえ)
cf. 皆様が考える
- ・一応申込書を送ってもらっておいて、雑誌などの取材記事を読んでから購入するかどうか決めます
01 (書)を(送っ)
01 (送っ)c (もらっ)
- ・そのワープロは私が記事を書くのに使わせてもらえますか
01 (使わ)c (せ)
01 (せ)c (もらえ)

(あげる、さしあげる)

(用言)+(接続助詞)「て」+(あげる、さしあげる)→作業対象

(あげる、さしあげる)がつくことにより陰にEXP格があらたに生ずる。

- ・あなたに資料を送ってあげよう
01REC (あなた)に(送っ)
01EXP (あなた)に(あげ)
「あなた」は「送っ」と「あげ」の両方にかかっていると考えられる。「送っ」からみると「あなた」はAGTであるが、「あげ」からみるとEXPである。「あげる」がついたことによりEXP格の可能性が生じた。
- ・日本には初めていらっしゃるので、色々案内してあげようと思ってるんですが
01 (色々)e (案内)
01 (案内)c (あげ)
- ・今回はこちらが案内してさしあげなければ、と思っていたものですから
01 (今回)e (案内)
01 (こちら)が(案内)
01 (案内)c (さしあげ)

(かねる)→作業対象

(かねる)がつくことにより[が] 格だったものが[に] 格または[で] 格になる。

- ・私にはわかりかねますので係の者に聞いてまいります。
01 (私)に(わかり)
01 (わかり)c (かね)
cf. 私がわかる

・当方ではそこまでは補償いたしかねます

01 (当方)で(補償)

01 (補償)c (かね)

cf. 当方が補償する

(ほしい)→作業対象

(ほしい)がつくことにより陰にEXP格が生じ、[が] 格だったものが [に] 格になる。

・いえ、まだなのでホテルも取ってほしいんですけど

01 (ホテル)を(取っ)

01 (取っ)c (ほしい)

(なれる)→作業対象

(...になれる)の形になると可能表現なので陰にEXP格があらたに生ずる。

・皆様が、ご講演当日の朝、もしくはセッション前の時間をご利用になれます

01AGT(皆様)が(利用)

01OBJ(時間)を(利用)

01CON(利用)c(なれ)

「皆様」は「利用」と「なれ」の両方にかかっていると考えられる。「利用」からみると「皆様」はAGTであるが「なれ」からみるとEXPである。「なれる」がついたことによりEXP格の可能性が生じた。

(きれる)作業対象

(きれる)がつくと [が] 格が [に] 格になり、また、陰にEXP格があらたに生ずることがある。

・私には内容はとても紹介しきれません

01AGT (私)に(紹介)

01CON (紹介)c(きれ)

cf. 私が内容を紹介する

・とりわけ見事な晴天でしたから悔やみきれないんです 01 (悔やみ)c(きれ)

(くる、いく、みる、おく、しまうetc)

補助動詞19の品詞番号を与えられている場合は原則として作業対象ではないが、「て来る」などについては下記のような例外があるので注意を要する。

「て来る」を作業している場合：

「来る」が本動詞であるか、補助動詞であるかを認定することは、場合によってはかなり困難である。そこでテキストの判断に従う。

a. 「来る」が本動詞32となっていれば、作業対象

・助手を連れて会議に来る 04 (連れ)(来る)

b. 「来る」が補助動詞19となっている場合

b-1. 「来る」にかかる項がなければ、作業対象外

・助手を連れて来る

・今晚は夕食を食べて来ます

b-2. 「来る」のみにかかる項があれば、作業対象

この場合本動詞と「来る」の間は品詞番号に従い01cで作業する。

・犬を学校に連れて来る

01 (犬)を(連れ)

01 (学校)に(来る)

01 (連れ)c(来る)

「連れる」は [に] 格をとらず、「学校に連れる」という言い方ができない。「学校」

は「来る」にかけなければならない。

b-3. 「来る」に項がかかっているかどうか分からない場合は作業対象外

- ・宏は会社まで走って来た

01 (宏)が(走っ)

01 (会社)まで(走っ)

「会社」のかかり先は「来」とも考えられるが、近場の法則により「走っ」にする。

その結果「来る」にかかる項が無くなるので「来る」は作業対象外になる。

- ・当日、受付に阿部さんが布施さんの登録証を持って来られましたら、それと引き換えに阿部さんの登録証をお渡しいたしますので

01 (受付)に(来)

01 (阿部さん)が(持っ)

01 (証)を(持っ)

01 (持っ)c(来)

(いたすいたします)→作業対象外

3.3 接続詞みなし

下記のリスト中の語句は特に文頭にたった場合接続詞に準じた機能を果たすことがある。このような場合接続詞と同様に作業対象外にする。ただし文脈によっては作業することもある。

そういたしますと

そうすると

そうしますと

それと

あと

つまり

また

おまけに

ところが

と言いますのも

といいますのも

ただ

それにしても

それに

それはそれとして

それはそうと

それで

要するに

それなら

でしたら

それででしたら

ですから

というわけで

というと

ついては

つきましては

そうしたら
そうしましたら
そういえば
それがですね
それが
それがね

cf. <接続詞みなしをせずに作業をしている例>

- ・それはそうですけど、どうしてそんなことになったのか、調べていただけませんか
01 (それ) が (そう)
- ・それはそうですね 01 (それ) が (そう)

cf. <接続詞みなしをせずに作業をしている例>

- ・それが問題の本です。
- ・それはそうですが、どうしてそんなことになったのですか
01 (それ) が (そう)

3.4 サ変名詞(or転成名詞)+係(or副)助詞 + 補助動詞「する」or「できる」

係(副)助詞をぬいて考えると、サ変名詞(or転成名詞)の用言性が生きてくる(この場合は、3.6でとりあげている品詞番号の読み変えとも共通する例にもなっている)。ただし比較の例のように[の]があり、明らかに名詞として機能している場合は「する」を本動詞と考える。

- ・当日確認はしておきます 01 (当日) e (確認)
cf. 当日内容の確認はしておきます
01TMA (当日) e (し)
02OBJ (内容)の(確認)
01OBJ (確認)を(し)
- ・彼は夏休み中、休みもせずに働いた
01 (彼)が(休み)
01 (中)に(休み)
04 (休み)X(働い)
- ・私も食事はしたいが、今ちょっと忙しいからあとで
01 (私)が(食事)
01 (食事) c (たい)
- ・電話で申込みはできるのでしょうか
01 (電話)で(申込み)
01 (申込み) c (できる)

:係(or副)助詞をぬいて考えるとサ変名詞(or転成名詞)の用言性が生きてくる。ただし以下の例のように格助詞[の]があり、明らかに名詞として機能している場合は「する」を本動詞と考える。

- cf. 当日内容の確認はしておきます
01TMA (当日) e (し)
02OBJ (内容)の(確認)
01OBJ (確認)を(し)

3.5 副詞の用言性

- ・ちゃんとした舞台(ちゃんと:8 し:32 舞台:4) 03(舞台)が(ちゃんと)
- ・シンガポールでゆっくりなさりたいのでしたら(ゆっくり:8 なさり:32)

01(シンガポール)で(ゆっくり)

01(ゆっくり)c(たい)

- ・スペインあたりでゆっくりしたいと思っています

01(あたり)で(ゆっくり)

01(ゆっくり)c(たい)

サ変副詞に後接する「する」は本動詞32となっているが用言性は副詞部分にあると考えられる。「する」は作業対象外とする。

- ・契約ホテルがいっぱいだった(いっぱい:8 だっ:12) 01(ホテル)が(いっぱい)

副詞+助動詞「だ」の場合も用言性は副詞部分にあると考えられるので、「だ」は作業対象外とする。

3.6 品詞番号を読み変える場合の主な例

(じゃ)

品詞分類上で14(接続助詞)の扱いを受けている「じゃ」に関しては作業をしない場合と、助動詞「だ」の連用形「で」+係助詞「は」と考えて作業する場合、および格助詞「で」+係助詞「は」と考えて作業する場合がある。

(作業しない場合)

- ・今やっていることは翻訳電話を作ろうじゃないかということなんです

03(こと)d(作る)

(助動詞「だ」の連用形「で」+係助詞「は」と考えられる場合)

- ・その招待状というのはそういう意味のものじゃないんですか

02(招待状)という(の)

01(の)が(じゃ)

01(もの)e(じゃ)

この場合には、「じゃ」を12:助動詞と読み変えることによって作業している。

- ・今日の日付じゃないと50パーセントお返しできなくなるんです 01(日付)e(じゃ)

- ・そこで降ろしていただけるんじゃないかと思えますけれど

01(いただける)と(思い)

「いただけるんじゃないか」は「いただける」:19 + 「の」:34 + 「で」:12 + 「は」:36 + 「ない」:12 + 「か」:16と考えられる。従って「のだ」型になるため作業しない。

「3-1 助動詞(だ)」を参照。

(格助詞「で」+係助詞「は」と考えられる場合)

- ・2【階17】と1階じゃ値段 {違う32} んだよね

01(2階と1階):固め で(違う)

「じゃ」を読み変えると「AとBでは値段が違う」という構文になるのでかためて格助詞は「で」にする。

(とんでもございません)

「とんでもない」は1(形容詞)として1語であるが「とんでもございません」は「とんでも」

:8(副詞)+「ございませ」:32(動詞)+「ん」:12(助動詞)と品詞分類されている。しかし「とんでも」

という副詞は存在しないので、「とんでもございません」は、「とんでもない」の丁寧な表現と考えると同様に1語として扱う。

(早め、高め、遅め etc.)

これらは「早、高、遅」:1(形容詞)+「め」:17(接尾語)の2語として品詞分類されているが、作業上では1語で名詞と考える。作業においては「め」をheadとして扱う。

- ・ ちょっと早めに会場に行く
02(ちょっと)b(め)
01(め)に行く)

3.7 接尾語について

(...易い、にくい、つらい、がたい)は接尾語17で原則上は作業対象外であるが、表層格または深層格を変える可能性を有しているため作業対象となり01cで表現される。2.6.2(c)の項も参照。

- ・ セッションが始まる前に実際におやりになってみて、先生が使い易い方をお選びください
01AGT(先生)が(使い)
01CON(使い)c(易い)
03GAI(方)d(易い)
- ・ 個人ではなかなか計画がたてづらいのでバックでお願いします
01CND(個人)で(たて)
01OBJ(計画)が(たて)
01CON(たて)c(づらい)
cf.計画をたてる
- ・ いかんともしがたい 01(し)c(がたい)
- ・ 皆さん内容がわかりにくいとおっしゃるんですが
01OBJ(内容)が(わかり)
01CON(わかり)c(にくい)
01CON(にくい)と(おっしゃる)
cf.内容をわかる
- ・ そちらのツアーではちょっと満足しがたいです
01CAU(ツアー)で(満足)
01CON(満足)c(がたい)

3.8 作業しない格助詞

テキスト上にあっても表記されない格助詞については2.6.7で例文をあげて説明しているので参照されたい。

4 その他の検討を要する問題

4.1 名詞連鎖

名詞が格助詞の介在なしにA B C Dと複数並んでいる時の作業としては

- (1) ばらばらにして1語ずつ用言にかける
- (2) 名詞連鎖として扱う
- (3) 固める

このうち(2)(3)にはいくつか検討すべき問題が内在する

<名詞連鎖>-(A B C Dの間に意味的に何らかの関係があり、A B C Dを一まとまりの名詞と考えてよい場合)。 → 一番最後の名詞のみ作業する。

基本的な考え方としては

原則1: 名詞連鎖にできる場合は名詞連鎖にする。

原則2: 名詞連鎖にすると問題の生ずる場合は分断。

1. 学生3人来ました
2. 学生3人が来ました
01 (人)が(来ました)
1.2.共に「学生3人」を名詞連鎖
3. ではポスター5枚、ちらし100枚お送りいたします。
01 (ポスター5枚)を(送り)
01 (ちらし100枚)を(送り)
「ポスター5枚」、「ちらし100枚」はそれぞれ名詞連鎖にして「お送りいたします」にかける。

原則3: 後ろの名詞の1部分にさえかかっているならば、固めずに名詞連鎖でよい。

- 金閣、銀閣寺に行った 01 (寺)に(行く)
「寺」が「金閣」「銀閣」の両方を受けている
類例: 「19、20日」「神奈川、埼玉県」
だめな例: 金閣寺、銀閣寺に行った
01 (金閣寺)に(行く)
01 (銀閣寺)に(行く)

原則4: 接頭語、接尾語は名詞連鎖の中に含める。

お(18)客(4)様(17) → (様)をheadとする

原則5: 名詞連鎖にする場合は、一番最後の名詞に用言性があっても原則としてその用言性は認めない。

具体的にどのような場合に名詞連鎖と考えるのか、また名詞連鎖を分断するのはどんな場合かをテキストの中から例文をを挙げることによって考えていきたい。

・正面玄関から送迎ありって書きましたけど、ほかに「サテライト会場こちら」っていう案内板があった方がいいでしょうかね

02 (玄関)から(あり)

「送迎あり」については文語の「有り」は用言にしていたが、ここでは名詞とも考えられるので、「送迎あり」全体を名詞連鎖とする。

- ・「名古屋入り」
名古屋」は固有名詞であるが、「名古屋」にも「入り」にもかかるものが何もないので、このまま何もせず、名詞連鎖にしておけばよい(あえて切ることはない)。
- ・「13日に名古屋入り」
02(13日)に(入り)
02(名古屋)b(入り)
「名古屋」が固有名詞であり、「13日」が「入り」にのみかかっていると思われるので、名詞連鎖が切れていると考える。
- ・「14時の東京発」
02(14時)の(発)
「東京」は固有名詞であるが、「発」が自立語ではないので「東京発」は名詞連鎖にする。「東京」と「発」の間は作業しない。
- ・おもにフランス料理でして、マリネとかパテなど軽いお食事程度です
03(食事)が(軽い)
02(食事)b(程度)
「食事が軽い」と「程度」で名詞連鎖を切る。
- ・11時15分からの招待講演以後でよろしければ、当日の朝、8時台の、新幹線にお乗りになれば大丈夫ですよ
02(分)からの(講演)
02(講演)b(以後)
「分」は「以後」にはかかっていないので、名詞連鎖にせず、「講演」にかける。
- ・はい、こちらは最終プログラムで、参加者のかた全員ご参加いただけるよう、大会場にて行いますので重なる心配はございません
02(参加者)の(かた)
01(かた)が(参加)
01(全員)e(参加)
「かた全員」という名詞連鎖は認められない。「かた」を02で「全員」にかけることも考えられるが、01優先の法則を生かし「かた」は「参加」にかける。
- ・広告は2分の1ページから掲載できますので
分数の表現を分けて作業しても意味がないので「2分の1」はまとめて一語とみなす。そこで「2分の1」と「ページ」は名詞連鎖になる。

4.2 固め

固めはできるだけ避ける。しかし二つ以上の単語が意味上ひとつのまとまりを形成していて、かけ先に対してばらばらにしてかけることができない場合、また、ばらばらにすると意味解釈の誤解を招く場合は固めを使う。特にばらばらにすると言えない順番になっていることがはっきりしていれば固めを使う。固め方については以下の例のように並列助詞がある場合、固めの終りの部分に注意する。

例1. それでは研究室 と、広報部と、玄関 と、3枚くらいいただけますか。

○ 02(研究室...玄関と)に(3枚)

× 02(研究室...玄関)に(3枚)

例2. 菊田先生とダイアン先生 との二人

○ 02(菊田先生とダイアン先生と)の(二人)

× 02(菊田先生とダイアン先生)の(二人)

2つの単語の間と2つ目の単語の後ろの両方に「と」がある場合、固めは2番目の「と」をも含む。
(固めの終り(位置1終)は「と」にする)

固めにする場合とばらばらにする場合の差異を作業テキストの上で見えていくことにする。

- ・けれども、出発日の2日前か前日、つまり19、20日になりますとキャンセル料が旅行代金の30パーセント、旅行当日だと50パーセントになりますので
「19」も「20」も「日」にかかっているので「19、20日」は固めない。名詞連鎖とみなす。
- ・大体10000円から15000円(ぐらい)です
ばらばらにして言えるので固めない。
01(10000円)から(です)
01(15000円)まで(です) [まで] を復元
[まで] は格助詞復元順位において[e]に優先する。
- ・3泊で「6万」から「7万」になる
01(6万)から(なる)
01(7万)までに(なる)
[から] は [からに] とする必要がある。
- ・D、F、Kの順にならぶ 02(D...K)の(順)
「Dの順にならぶ」と言えないので固める。
- ・東京・博多の航空券 02(東京...博多)の(券)
「東京の航空券」と言えないので固める。
- ・パリ、ローマ、ロンドンと回ります 01(パリ...ロンドン)と(回る)
「パリと回る」などとは言えないので固める。
- ・パリ、ロンドン、ローマにいきたい
01(パリ)に(いき)
01(ロンドン)に(いき)
01(ローマ)に(いき)
ばらばらにしても言えるので固めない。
- ・グアム、サイパンへの航空券は売り切れです
それぞれへの航空券が問題になっているときはばらばら。
- ・大阪、名古屋で途中下車する
01(大阪)で(下車)
01(名古屋)で(下車)
順番になっても上の例はばらばらにして意味が通る。

4.3 A + B + [格助詞] + C と A + [格助詞] + B + C

A + [格助詞] + B + C型

原則：AはできるだけCにかけ、BCの名詞連鎖は崩さない。しかし、AがBにかかる場合もあり得る。

その場合BとCの関係を記述することが多い。

(a). Cが自立語である場合

a-1. 格助詞が[の]である場合

a-1-1. AがCにのみかかる場合は、A-C型にする

・ゴルバチョフの共産党解体 02(ゴルバチョフ)の(解体)

a-1-2. AがBにもCにもかかりうる場合は、BCを名詞連鎖にし、

A-C型にする。

- ・ソ連の共産党解体 02 (ソ連) の (解体)
「ソ連における(共産党の)解体(02SPA)」が可能
 - ・ドイツの視察旅行 02 (ドイツ) の (旅行)
- a-1-3. A が B にしかかからない場合は A-B、B-C型にする。
- ・ガラス張りのテラス付き
02 (ガラス張り) の (テラス)
02 (テラス) b (付き)
 - ・演者のかた全員から演題をだしていただく
02 (演者) の (かた)
02 (かた) の (全員)

a-2. 格助詞が [の] ではない場合

A を B にかけてもよい

- ・サラリーマンに課税徴収
02 (サラリーマン) に (課税)
02 (課税) b (徴収)
- ・第13回国際会議に参加予定だった
02 (会議) に (参加)
02 (参加) b (予定)

(b) C が非自立語の場合

b-1 格助詞が [の] の場合

A を B にかけることも、C にかけることもできるが、defaultはA-C型にする。

- ・会議の終了後
[A-C型] 02 (会議) の (後)
[A-B、B-C型] 02 (会議) の (終了)、06 (後) d (終了)
- ・事務の手続き上 02 (事務) の (上)
- ・事務局の山田宛 02 (事務局) の (宛)

b-2. 格助詞が [の] 以外の場合

A を B にかけてもよい

- ・会議で配布用の資料
02 (会議) で (配布)
06 (用) d (配布)
- ・会議が終了後
02 (会議) が (終了)
06 (後) d (終了)

A+B+ [格助詞] +C型

原則: AB の名詞連鎖はできるだけ崩さないで、B を C にかける。しかしA が B にかかる場合もあるので、その場合は B と C の関係を記述することになる。特に C の自立性が弱く、B に用言性がある場合には、B-Cの間には06の関係がなりたつのでその場合 A と Bの間は 02 b で作業することになる。

- ・長尾教授担当の方
02 (長尾教授) b (担当)
06 (方) d (担当)

- ・ 6日開催の会議
- 02(6日)b(開催)
- 06(会議)を(開催)

参考文献

- [1]江原、小倉、篠崎、森元、樽松：「電話またはキーボードを介した対話に基づく対話データベースADDの構築」, 情報処理学会論文誌, Vol.33, No.4 (1992)
- [2]篠崎、水野、小倉、吉本：「形態素情報利用解説書」, ATRテクニカルレポートTR-I-0077 (1989)
- [3]幸山、衛藤：「日英対訳対応データ仕様」, ATRテクニカルレポートTR-I-0152 (1990)
- [4]浦谷、中村：「言語データベース用格・係り受け関係属性付与基準 ー深層格編ー」, ATRテクニカルレポートTR-I-0301 (1993)